

令和5年度（2023年度）  
熊本市・ハイデルベルク市青少年交流事業  
交流の記録（受入事業報告書）



令和6年（2024年）2月  
熊本市教育委員会



## 目次

|                                |    |
|--------------------------------|----|
| 1. はじめに .....                  | 1  |
| 2. 交流事業の背景 .....               | 3  |
| 3. イノベーション人材育成手法の開発.....       | 4  |
| 3.1. 国際交流プログラムの内容.....         | 4  |
| 3.2. イノベーション創発体験プログラムの内容 ..... | 7  |
| 4. 熊本市団員による報告書.....            | 12 |
| 5. まとめ .....                   | 45 |
| 参考文献.....                      | 45 |
| 付録1 メディア出演及び関連活動の記録.....       | 46 |
| 付録2 団員研修資料 .....               | 52 |
| 付録3 熊本市交流団員アンケート(自由記述)結果.....  | 62 |

# 1. はじめに

熊本市教育委員会は、友好都市であるドイツ・ハイデルベルク市との**国際交流**を通じて、両市青少年交流団員を、**次代を担うイノベーション人材**として育成することを目的に、「令和5年度（2023年度）熊本市・ハイデルベルク市青少年交流事業」を実施した。

本事業においては、両市の青少年に対して、国際交流すなわち「文化や言葉の壁を越えてコミュニケーションすることで互いの違いを認め合い、相互理解を深める」という機会と、イノベーション創発体験という「ICTをはじめとする新たな技術やアイデアを用いてこれまでにない新たな価値観を生み出す」という機会を提供することで、次代を担うイノベーション人材を育成することを企図している（図1）。

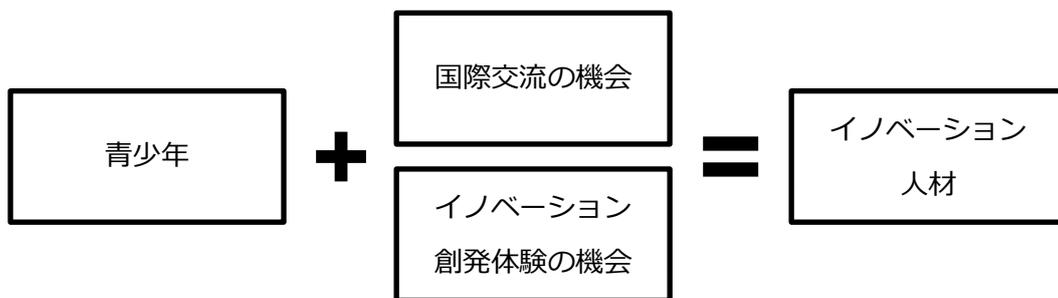


図1 イノベーション人材育成モデル

具体的には、国際交流の機会を生み出す「**国際交流プログラム**」とイノベーション創発体験の機会を生み出す「**イノベーション創発体験プログラム**」というふたつのプログラムを開発し、団員に提供した。

例えば、国際交流プログラムでは、団員らは若きリーダーとして、必要なプロトコル（儀礼）に則って、市長をはじめとする地域のリーダーと意見交換をしたり、また、異文化のコミュニティや母国とは異なる自然環境に身を投じたりすることで、多様な価値観を身に着ける。また、イノベーション創発体験プログラムでは、団員らが日ごろ慣れ親しんでいるスマートフォンで撮影した写真や動画データを、最先端のICT機材に投入することで仮想空間上にコンテンツを作成したり、異分野の商品やサービス同士をつなげることでイノベーション（新結合）を生み出す手法を学んだりできる（図2）。これら、ふたつのプログラムについては第3章で詳述する。

本報告書は、これらのプログラムを注入した2023年7月31日から8月8日までの熊

本での交流活動におけるハイデルベルク市青少年団員 14 人と、パートナーとして彼らと 1 対 1 の関係を作り交流した熊本市の青少年交流団員 14 人の活動紹介とともに、熊本市の団員らが今回の交流から得た学びや気づきとともに来夏のハイデルベルク訪問に向けた抱負をしたための団員報告書で構成されている。

熊本市教育委員会は、本報告書が熊本市・ハイデルベルク市青少年国際交流事業（以下、「両市交流事業」という。）の詳細な記録として活用され、その内容が本事業のさらなる発展はもとより、熊本市における国際交流やイノベーション人材育成事業の発展に資することを期待し、本報告書を作成する。

本報告書の構成は以下のとおりである。第 2 章で両市交流事業の背景と目的について説明する。次に第 3 章で次世代のイノベーション人材育成のために熊本市教育委員会が開発したふたつのプログラムについて詳述する。第 4 章で熊本の団員 14 名が作成した今回の交流の感想と来夏のハイデルベルク訪問に向けた意気込みなどを内容とする報告書を掲載する。最後に第 5 章でまとめる。



図 2 国際交流プログラムとイノベーション創発体験プログラムでの様子

## 2. 交流事業の背景

近年、姉妹（友好）都市締結自治体数は 2010 年の 1,592 から 2023 年の 1,796 へと 13 年間で約 13%増加しており、姉妹都市間の国際交流事業が活発におこなわれてきた[1]。この姉妹都市間の国際交流事業の分類において約 30%を教育分野が占めており、特に人材育成面において有効であることから多くの自治体に取り組んでいる[2]。

この姉妹都市間の国際交流事業においては、特に国際的感覚を身に着けた卓越した次世代のリーダーである「グローバル人材」の育成を目指したものが多く、2011 年に産学連携によるグローバル人材育成推進会議が文部科学省に対して報告した「産学官によるグローバル人材の育成のための戦略」においては、グローバル人材とは「世界的な競争と共生が進む現代社会において、日本人としてのアイデンティティを持ちながら、広い視野に立って培われる教養と専門性、異なる言語、文化、価値を乗り越えて関係を構築するためのコミュニケーション能力と協調性、新しい価値を創造する能力、次世代までも視野に入れた社会貢献の意識などを持った人間」と定義されている[3]。

ここで示されたグローバル人材とは、単に外国語を話し諸外国の人々とコミュニケーションを取る能力を有するだけでなく、競争と共生を通して、これまでにない新しい価値の創造、すなわちイノベーションを創発する能力を備えた人材を指していることに注意を要する。

熊本市教育委員会においては、特に青少年の世代を対象に、国際感覚を有し、異なる言語や文化の壁を超えて、新たな価値観を生み出すことができるイノベーション人材（グローバル人材）育成に一貫して取り組んできた。1992 年の友好都市盟約締結以来継続されている、両市の若者が隔年で相手国を訪問しホームステイをおこなう相互交流事業である両市交流事業はその象徴ともいえる事業である。この事業報告書（図 3）においては、交流を通じて両市青少年交流団員をイノベーション人材として育成するという事業目的が明記されており、30 年にわたって独自に若者のイノベーション人材育成を推進してきたことが確認できる[4][5]。



図 3 令和 3 年度（2021 年度）熊本市・ハイデルベルク市青少年交流事業 オンライン交流の記録（活動報告書）

### 3. イノベーション人材育成手法の開発

両市交流事業のイノベーション人材育成手法においては、国際交流を目的ではなく、次代を担うイノベーション人材を育成するための手段として用いる点に特徴がある。一般に、異なる言語や異文化を持つ人材とのコミュニケーションは時間がかかり、誤解が生じることが多いことから、トラブルを避けるために、互いを理解しやすい類似の人材とともに時間を過ごしがちである。この傾向は日本社会全般にまん延しており、社会に根強く存在する様々な「垣根」を超える連携を避ける傾向が強いことが日本の発展を阻害しているという報告もある[6]。

熊本市教育委員会は、両市交流事業を通じて、青少年らが積極的に言語や文化の垣根を乗り越え、イノベーション人材として成長することを支援するために、国際交流の機会を生み出す「国際交流プログラム」とイノベーション創発体験の機会を生み出す「イノベーション創発体験プログラム」というふたつのプログラムを開発した。そしてこれらのプログラムを、2023年7月31日から8月8日まで熊本で開催された両市交流事業に参加した14人のハイデルベルク市の青少年交流団員と、彼らと1対1のパートナー関係を結ぶ熊本市の青少年交流団員14人団員に提供した。以下、このプログラムの内容をまとめた日程表を表1に示すとともにその内容について説明する。

#### 3.1. 国際交流プログラムの内容

表1の日程表において赤字で示している国際交流プログラムの内容について紹介する。

##### (1) 平和学習（平和公園/長崎原爆資料館等）

長崎原爆資料館等は原子爆弾投下という第二次世界大戦の負の遺産を学ぶことができる施設である。ドイツは隣国ポーランドのアウシュビッツ収容所に代表される戦争の負の遺産に向き合ってきた国であることから、戦争から人間の尊厳をいかに守るかという観点で学ぶことが重要視している。ハイデルベルク市青少年交流団員らは原爆に関する資料に全員真剣に向き合っていた（図4）。



図4 長崎での平和学習の様子

表 1 両市交流事業 2023 年度日程表

| 日次 | 月/日    | 場所 | スケジュール<br>(赤字：国際交流プログラム/青字：イノベーション創発体験プログラム)  |
|----|--------|----|---|
| 1  | 7/31 月 | 熊本 | 熊本着   |
| 2  | 8/1 火  | 長崎 | 平和学習 (平和公園/長崎原爆資料館等)  |
| 3  | 8/2 水  | 熊本 | 日本文化体験 (必由館高校にて書道/和太鼓/茶道/箏曲)<br>熊本市長/熊本市議会議長表敬<br>対面式 (熊本市国際交流会館)<br>熊本城ミュージアムわくわく座/熊本城見学 |
| 4  | 8/3 木  | 美里 | 美里フットパス体験&美里町やすらぎ交流体験施設での交流 (元気の森かじか)   |
| 5  | 8/4 金  | 阿蘇 | 阿蘇見学 (阿蘇火山博物館等)   |
| 6  | 8/5 土  | 熊本 | イノベーションワークショップ (崇城大学 IoT・AI センター)<br>仮想空間コンテンツ制作体験 (崇城大学 IoT・AI センター)<br>火の国まつりおてもやん総おどり  |
| 7  | 8/6 日  | 熊本 | ホストファミリーとの交流活動  |
| 8  | 8/7 月  | 熊本 | 街中フィールドワーク<br>フェアウェルパーティー&ワークショップ   |
| 9  | 8/8 火  | 熊本 | 熊本発   |

(2) 日本文化体験 (必由館高校にて書道/和太鼓/茶道/箏曲)

日本人を理解するうえで、日本文化を理解することは重要である。熊本市立必由館高校の協力によって、ハイデルベルク市青少年交流団員に対して書道や和太鼓、茶道、箏曲という日本の伝統文化を体験する機会を提供した。インターネット等を



図 5 必由館高校での日本文化体験の様子

通じて見聞きし知っているということと、体験し理解することは別物であると交流団員らがコメントしていたのが印象的であった（図 5）。

### (3) 熊本市長/熊本市議会議長表敬（熊本市役所）

地域のリーダーに面会し、プロトコル（国際儀礼）に則って礼を尽くすとともに意見を交換することができることはイノベーション人材の能力の一部といえる。今回、ハイデルベルク市青少年交流団員らが、大西一史熊本市長、田中敦朗熊本市議会議長と面会し意見交換を行った（図 6）。来夏、熊本市団員らはハイデルベルク市長と面会する予定であることから、面会前に基本的なプロトコルを学ぶ予定である。



図 6 熊本市長、熊本市議会議長を表敬訪問

### (4) 美里フットパス体験&美里町やすらぎ交流体験施設での交流（元気の森かじか）

植生など欧州とは異なる自然環境下にある、人口減少によって廃校となった施設を活用した宿泊施設において、異なる食べものやもてなしの文化を体験した（図 7）。ハイデルベルク市では正月以外に花火をすることは禁止されており、夏の夜に花火を自由に楽しめる日本がうらやましいとハイデルベルク市団員は話していた。



図 7 美里フットパス体験での交流の様子

#### (5) 阿蘇見学（阿蘇火山博物館等）

日本 3 大カルデラのひとつであり、カルデラの内側に国道や鉄道が設置された生活圏を有するという点で世界に類を見ない阿蘇において、豊かな自然や歴史、文化に触れ、それらを保護し発展させてきた人間の営みについてパートナー同士で意見交換をおこなった（図 8）。特にハイデルベルク市団員らは、阿蘇火山博物館のカルデラ形成を説明するジオラマに興味を示し、熱心にパートナーに説明を求めている。



図 8 阿蘇見学の様子

#### (6) フェアウェルパーティー

離別に際して昼食会が設定され、今回の交流期間中の思い出をパートナー同士が語り合うとともに、来夏の再会に向けて絶えず連絡を取り合うことや互いの成長のために励まし合い努力を続けることを約束し合った（図 9）。熊本市団員の発案で、再会を約束する折り鶴を折り、パートナー同士が交換するワークショップを開催した。



図 9 フェアウェルパーティーと離別の様子

### 3.2. イノベーション創発体験プログラムの内容

表 1 の日程表において青字で示しているイノベーション創発体験プログラムの内容について紹介する。

(1) イノベーションワークショップ（崇城大学 IoT・AI センター）

イノベーション創発のための理論である地域コミュニティブランド[7]では、イノベーション創発手法が「技術革新」と「新結合」に大別されている。このうち技術革新は、研究機関や人材、予算といった資源を用いた新たな技術の進展によって新たな価値観（イノベーション）を創出するのに対し、新結合は既に存在する地域資源同士の新たなつながりによって新たな価値観を創出するという手法である。

新結合には研究者などの人的資源や大きな資本のほか、研究機関などの大都市に遍在することが多い資源を必要としないことから、疲弊した地域においてもイノベーションを創発できる手法として注目を集めている。

この新結合を創出するために必要となる「新たなつながり」を導き出すためのワークショップを崇城大学 IoT・AI センターにておこなった。具体的には、熊本発祥であり、日本の伝統的な食材であるふりかけを題材に新結合のアイデア創出に関する次の3つの演習をおこなった。

- (ア) ふりかけの機能を説明後にアイデアを質問
- (イ) ふりかけの概念・理念を説明後にアイデアを質問
- (ウ) イノベーションのアイデア創出に関する理解度を問うアンケートの実施

まず(ア)の実験では、図 10 を参加者に示し、ご飯に味をつける、ご飯をおいしくするというふりかけの機能について説明した後に、新たな商品やサービスなど、新たな価値を創出するイノベーションのアイデアについて発表を求めた。

Exercise 1 演習 1  
Dried food sprinkled over rice ふりかけ



図 10 機能の教示

その結果、パンに塗る新たな味や食感のペーストの開発や、パスタにトッピングするフレークの開発といったアイデアが発表された。

次に(イ)の実験では、図 11 を参加者に示し、ふりかけが発祥した時代背景や社会情勢を説明するとともに、当時、多くの子供たちが抱えていた栄養失調を解消するという発明者の理念を説明したのちに、新たな商品やサービスなどイノベーションのアイデアについて発表を求めた。

## Exercise 2 演習2 Storyful Dried food sprinkled over rice ふりかけの物語



- To help nutritionally (calcium) deficient children, small fish were mashed to make furikake, 100 years ago.  
100年前に、栄養（カルシウム）不足の子供たちを救うために小魚をすりつぶしてふりかけを作った。
- Think of an idea for a new combination.  
新結合のアイデアを考えよう

図 11 概念・理念の教示

その結果、日本の若者から、のどや食道に障がいを持ち嚥下に困難を抱える高齢者や障がい者のためにソフトタイプのふりかけを開発するというアイデアが発表された。また、ドイツの若者からふりかけのパッケージがゴミとなることから着想した家庭同士がつながることで行政に頼らないゴミ収集のネットワークを構築するアイデアが示された。いずれのアイデアもふりかけを単なる食材ではなく、障がい者やゴミの問題に関連させる思考に発展させたことが確認できた。この実験を通じて、地域コミュニティブランドを用いた概念・理念を基に新たなつながりを想起させることによって若者の思考が活性化され、イノベーションのアイデア創出に有効に働いた可能性が示された。

最後に(ウ)について、イノベーションのアイデア創出には、機能のみならず概念・理念に着目することが有効であることへの理解度アンケートを Google フォームにより実施した。内容は「ふりかけの演習を通して、商品の魅力だけでなく、商品を生み出す理念やストーリーに着目することでイノベーションのアイデアが生まれることを理解できたか？」という設問に対して、「理解し完全に同意する」「理解し同意する」「理解できたが同意できない」「理解できない」という4つの選択肢からひとつを選択する形式とした。

その結果、図 12 に示すように回答者の全数に当たる 24 人から「理解し完全に同意する (13)」または「理解し同意する (11)」という回答を得た。実験 (図 13) を通して、商品やサービスの機能のみではなく、概念や理念を示して新たなつながりを検討することによって、国や言語を超えた若者の新結合によるイノベーションのアイデア創出に一定程度有効であることが明らかとなった。

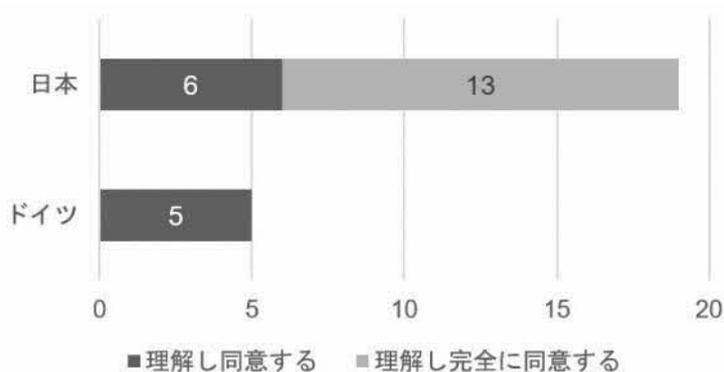


図 12 アンケート結果



図 13 ワークショップの様子

## (2) 仮想空間コンテンツ制作体験 (崇城大学 IoT・AI センター)

インターネットの普及により、社会の変化はこれまでにない速いスピードで進展している。医療分野においては、1950年時点で医学知識が倍になるには50年を要していたが、1980年にはこれが7年になり、2010年には3.5年になり、2020年には、なんとたったの73日で医学知識が倍になると指摘されている[8]。

このような急速な知識や情報の増加局面にあって、現代の若者らはデジタルネイ

ティブ世代と呼ばれ、インターネット上の知識を素早く検索し、スマートフォンやタブレットを自在に操り、SNS や写真、動画といったデータを扱うことで、日常的に自己表現をおこなっている。

このような若者たちの活躍の場として提供されているのが 2020 年にイノベーション人材育成を目的のひとつとして崇城大学に開設された IoT・AI センターである。今回、両市交流事業と共通の目的を有する IoT・AI センター内に備えられている周囲 360 度の白い壁をスクリーンとして映像を投影可能な「メタ空間スタジオ」において、両市交流団員が自由な発想で映像コンテンツを制作する活動を実施した。両市交流団員 28 名に加えて一般参加枠の高校生 5 名を加えた 33 名は 2 グループに分かれて構想を練り、ひとつのグループは日独の高校生の友情をテーマにスマートフォン内の写真や動画を集め、音楽を加えて、プロモーションビデオ風の映像作品を崇城大学 SCB 放送局及び崇城大学 IoT・AI センター学生クラブの学生スタッフらのサポートを受けながら作り上げた。他方のグループはハイデルベルク市では新年以外禁止されている花火を、熊本で自由に体験するという「非日常」をテーマにした映像コンテンツを制作した。

さらには、ある熊本市団員が崇城大学で毎年開催され情報学部や芸術学部の学生が挑戦している仮想空間デザインコンテストのレギュレーションに合わせて制作した熊本城とハイデルベルク城をモチーフにしたフル CG の映像作品を、当日サプライズで上映し喝さいを浴びた (図 14)。

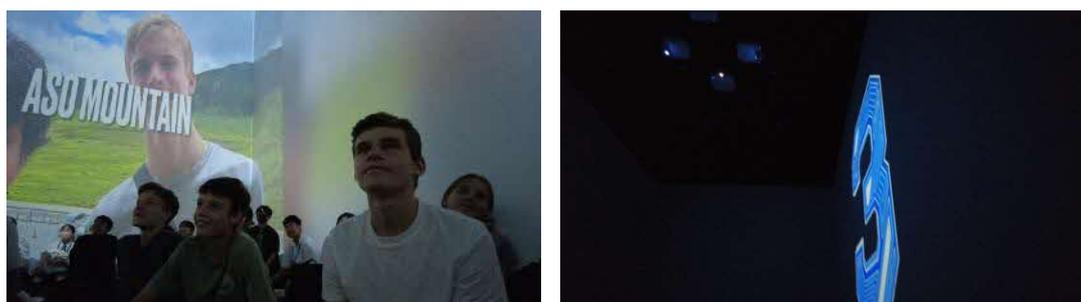


図 14 団員らのアイデアから生み出された映像作品を鑑賞

## 4. 熊本市団員による報告書

本章では、14名の熊本市団員が今回の交流の感想と来夏のハイデルベルク訪問に向けた意気込みなどを内容とする報告書を掲載する。言葉や文化の壁を感じる団員が多く、「言語とコミュニケーション」「異文化理解」といったテーマを扱った報告書が比較的多数であった。その一方で、相撲やポップカルチャー、SDGs、教育の国際化、観光立国に向けた観光案内の多言語化といったユニークな視点で書かれた報告書があり、これまでにない新たな価値観を有するイノベーション人材育成を目的とする本事業の趣旨が十分に反映されたものとなっている。以下に各団員の報告書を掲載する。

### 報告書テーマ1：多様な興味関心（相撲、SDGs、ポップカルチャー、観光の国際化）

1. 相撲を通して友情を深めた夏 / M. S. (必由館高校2年)
2. 交流をきっかけに膨らんだSDGsへの関心 / R. Y. (九州学院高校2年)
3. ポップカルチャーで平和な世界へ / N. N. (熊本商業高校1年)
4. 観光立国に向けた多言語表示の課題 / A. S. (熊本信愛女学院高校1年)

### 報告書テーマ2：グローバル人材

5. 日本の国際化に向けての一步とは / R. T. (九州学院高校1年)
6. 日本が世界で活躍する人材を輩出するためには / Y. O. (真和高校1年)
7. 国際交流の意義と成果 / A. I. (一ツ葉高校1年)

### 報告書テーマ3：異文化交流

8. 異文化への誠意 / T. M. (熊本学園大学附属高校1年)
9. 海外マインドに学ぶ強かな生き方 / K. I. (東稜高校2年)
10. 挑戦することが大切 / K. N. (開新高校2年)

### 報告書テーマ4：言語とコミュニケーション

11. 変化・成長を掴んだ一週間 / S. N. (熊本高校2年)
12. 言語の壁を超えるもの / K. Y. (済々黌高校1年)
13. 悔しさをばねに～私の成長に向けて / M. S. (クラーク記念国際高校1年)
14. 英語の壁は分厚かった / M. I. (必由館高校2年)

## 相撲を通して友情を深めた夏

M. S. (必由館高校2年)

### はじめに

私は日本の伝統的なスポーツである相撲が大好きです。相撲には、鬘（まげ）や古くからの衣装や数々のしきたり等、単なるスポーツを超えた日本の伝統文化としての魅力がたくさん詰まっているので、少しでも多くの人に相撲の面白さや魅力を伝えたいと思い、この交流事業に参加しました。特におそらく相撲を知る機会がなかったであろうドイツ人に対して、長い歴史を持ち、日本の国技のような存在である相撲を伝えることで、日本という国や文化への理解を深めてもらいたいと思いました。

### 相撲を通じた日本文化の紹介

そこで、私は相撲をスポーツとしてではなく文化として紹介するという戦略を練りました。例えば、力士が身につける着物は糸をつむぐところから始まり、染色の際は自身のしこ名を白く染め抜く「染抜き」と呼ばれる伝統的な方法を使い、一つ一つ時間をかけて作られています。

また、日本では昔から塩に「清め」「お祓い」の力があると考えられており、日本人と塩は深く関わり合っています。相撲では本場所の前に新しく作った土俵の中央に塩を埋めて、15日間の無事を祈願します。取組前には力士は土俵を清めるために塩をまきます。このように相撲には日本の伝統的な文化の要素がたくさん詰まっています。私は事前に準備していた相撲雑誌を活用して、これらの日本の伝統文化を、相撲にまつわるしきたりや所作、活動を交えながら紹介しました。

### パートナーを皮切りに魅力を拡大

実際に私のパートナーは初めて相撲のことについて知り、相撲にも日本の文化にも興味を持ってくれました。私自身も相撲を通して多くの日本の伝統文化を学びました。相撲を知るということは日本の文化を知ることにつながります。江戸時代から変わらぬ姿で、長い間日本人から愛されてきた相撲を通して、日本の文化に触れ、さらに日本の良さを再発見できる要素を持っていると思います。近年はモンゴルをはじめ欧米出身の力士の活躍が目立ちますが、海外ではまだ相撲の人気が高いとは言えない状況です。相撲には歴史・文化・神事・競技など様々な側面があります。このようなスポーツは他にあるのでしょうか？私はこの相撲をスポーツとしてではなく文化として伝え、アピールすることで少しで

も多くの人が日本に興味を持ち、訪れてくれることを願っています。



「2023年夏場所 in Kumamoto」

## 交流をきっかけに膨らんだ SDGs への関心

R. Y. (九州学院高校 2 年)

### SDGs 先進国のドイツ

このプログラムは私に、ドイツという国を通して今まで詳しくなかった SDGs の取り組みを、「面白い、もっと知りたい」と思うきっかけを作ってくれた。

「ドイツは SDGs が発展している国として世界で最も名高い国の一つ」これはドイツへの私の強い印象である。社会の授業で習ったと言う人も多いのではないだろうか。近年、日本でも SDGs に熱心に取り組む企業や学校が多い。そのため、私たちはどこへ行っても SDGs の取り組みを目にする。そんな日本だが、2023 年の SDGs 達成度ランキング[1]では 21 位であった。この結果は、私たちが思っている以上に高い順位であるが、一方で、ドイツは毎年トップ 5 に入るほどの常連国であり、今年は 4 位だった。そこから私は疑問を持った。日本とドイツではどんな違いがあるのだろうか、ドイツは SDGs のためにどんなことをしているのだろうか。今回は、日本の課題の一つである「節電」に注目していく。



3,333 段の階段を登り切った後の写真

### クーラーを通した日本とドイツの違い

YouTuber の oddy が動画でドイツ暮らしを紹介している[2]。その中で一番衝撃的だった事は、ドイツの店舗ではクーラーが設置されていないことである。日本の夏は、もちろん外は暑いですが、店内ではクーラーが効いている。温かい食事を真夏でも快適に食べることができるのはクーラーのお陰である。一方で、ドイツでは飲食店だけではなくデパートにもクーラーがついていないところが一般的であるそうだ。私も似たような話をパートナーとしたことを思い出した。ドイツ人のパートナーと飲食店に入った時、涼しくて快適だと言っていた。それが当たり前で過ごしていた私は不思議に思ったが、ドイツでの暮らしを YouTube で見て納得した。

### SDGs 達成に向けたドイツの矜持

確かに、クーラーがない夏場はとて厳しく、ドイツに比べると日本の店内の快適さは素晴らしいかもしれない。そしてやはりクーラーの快適さを知っている日本人は、建物の中で汗をかく事を不思議に感じるだろう。しかし、私はここにドイツならではの良さがあると思う。ドイツでクーラーなしで過ごせるのは、平均気温は日本と変わらなくても、湿度が低いからである。だがしかし、実際にはドイツ人も暑くて体調を崩す人もいるそうだ。体調を崩してまで遂行していくものではなく、それはただ単に昔からの慣習や文化というだけで SDGs 推進のためにしていることではないかもしれない。でも実際にクーラーをつけないことで相当な節電に繋がったろうし、二酸化炭素排出量を抑えることにも大きく貢献しているはずだ。ドイツが国全体で前向きに SDGs に取り組んでいるのは、一人ひとりが個人の欲を求めず、そこに存在する環境に自分たちの身の丈、つまり生活のレベルを合わせて、自然環境と共存していくことができているからだと思う。



美里町でのキャンプ交流での写真

### 来夏に向けて膨らむ期待

これからの日本人に求めることは、「“知っている”で終わらせないこと」だ。というのも、日本はアメリカ・中国と比べて SDGs に対する認知度（内容まで知っている、名前だけ知っている）は高く、ある認知度調査の結果では90%を超えている [3]。その一方で、実際に自分から行動しようとしている人や取り組みを始めている人が少ないという結果も出ている。これらの二つの結果を踏まえると、やはり日本は受け身である人が多く、認知度は高くてもそれが結果に繋がっている割合は少ないだろう。

そこで感じたのが、「“知っている”で終わらせないこと」だ。日本とドイツでは気候や環境が違うのでドイツとまったく同じ生活はできないが、例えば、クーラーの温度を一度でも上げて、節電に貢献することはできる。そのように、少しでも自分にできることはないだろうか、と考える事が SDGs を取り組むための出発点であり、これからの未来に関わってくる大きな問題を解決していく重要な鍵となるだろう。来年、ドイツを訪問する時には、両国の環境の違いに視点を置き実際に肌で感じて学びたいと思う。

## 参考文献

- [1] Sustainable Development Solutions Network, SUSTAINABLE DEVELOPMENT REPORT, <https://www.sdgindex.org/reports/sustainable-development-report-2023/>. 2023/10/09 閲覧
- [2] Oddy, ドイツ暮らし, <https://www.youtube.com/channel/UCWePRVqu8ryp3DC5eu7USpQ>. 2023/10/09 閲覧
- [3] 日本・アメリカ・中国のSDGsに関する意識比較調査, <https://www.asmarq.co.jp/data/ex202202sdgs/>. 2023/10/09 閲覧

## ポップカルチャーで平和な世界へ

N. N. (熊本商業高校 1 年)

### はじめに

今回の交流事業に参加し、日本のポップカルチャーに私はこの交流事業を通して世界はポップカルチャーで繋がれると思った。

### ポップカルチャーの勢い

私のパートナーは日本のアーティストである Ado や人気漫画のチェンソーマン、ONE PEACE などを知っていた。ニールセンブックスキャンの調べでは、実際、日本の漫画の海外への発行部数は 2012 年では 43 万 4633 部で、317 万ポンドの売り上げであったが、それが 2019 年には 2 倍以上の 98 万 3822 部、売り上げにいたっては約 3 倍の 910 万ポンドとなっている[1]。したがって、日本のポップカルチャーは短期間の間に広まったと言える。

### 趣味の多様さ

正直私は海外のポップカルチャーについて知らない。バーンとネルソンという心理学者が発表した「類似性の法則」によれば、人間は誰かとの間に共通点があると好意を持ちやすいということがいわれている[2]。つまり趣味の少ない私は、言語を使いこなせても、仲良くなれるチャンスを逃してしまう可能性があるといえる。今回のパートナーが日本について興味を持ってきていたのでたくさん話せたが、そうでなかった場合難しいコミュニケーションになったと思われる。

### ネットとポップカルチャー

私たちの生きるこの時代は、インターネットのおかげでいつでも知りたいことを知ることができる。この環境に感謝し、外の世界へ興味を持ちたいと多くの話題が話せるようになりたい。そして素晴らしい日本の文化と世界中の文化、古き良き文化と新時代のポップカルチャーを自分の中に浸透さ



アニメの繋がり

せたい。そしてたくさんの人との間にポップカルチャーをはじめとする類似性を見つけ、理解し合い、平和な世界を創っていきたい。

#### 参考文献

- [1] COURRIER JAPON, なぜいま海外で日本のマンガが爆発的に売れているのか？ 欧米の出版関係者が語る“その熱狂,” <https://courrier.jp/news/archives/307727/>, 2023/10/09 閲覧.
- [2] D. Byrne & D. Nelson, Attraction as a linear function of proportion of positive reinforcements, *Journal of Personality and Social Psychology*, Vol.1, No.6, pp.659–663. <https://doi.org/10.1037/h0022073>, 1965.

## 観光立国に向けた多言語表示の課題

A. S. （熊本信愛女学院高校1年）

### 提言の背景

今回の交流を通して熊本にある様々な場所を訪れた中で感じたことは、多言語表示の不足だった。これはこれまでひとりの高校生として生活してきた私が、今回、日本語話者でないパートナーと共に行動したからこそ、気づくことができたことである。



崇城大学でのイノベーション活動に参加するドイツ人パートナーたち

### 多言語表示の現状

国土交通省観光庁が訪日外国人旅行者を対象に行ったアンケートによると、旅行中困ったことの回答として「施設等のスタッフとのコミュニケーション」に次いで「多言語表示の少なさ・わかりにくさ」が挙げられている[1]。やはり多くの訪日外国人旅行者も同じように多言語表示の不足を感じるようだ。

資料館などでは日本語での説明でさえも難しい専門的な言葉や仕組みが多くみられる。そうした中でパートナーに説明を求められた際、自分のできうる限り答えるものの正確には伝わらないこともあった。主要外国語、せめて英語でだけでも表示があれば、理解はずっと容易くなるだろうと感じた。質問をする相手がない場合は、理解することができないままになってしまう可能性も十分にある。資料館や博物館において、来場者がその歴史や文化などの説明を理解できないということは、致命的な欠陥である。衰退途上国とまで言われている日本において、日本語話者にだけ焦点を当てた設備は、非日本語話者を排斥していると捉えられる可能性さえあり、さらなる衰退を助長しているといえる。

### 課題解決のアイデア

多言語表示を拡大するという課題の解決に向けて、私のアイデアと特徴を以下に示す。

#### 1. 訪日外国人に対するアンケートの実施

熊本を訪問中の外国人に特に多言語表示をしてほしい施設やサインについてのアンケートを実施し、その結果を基に対象となる施設を限定する

メリット：外国人の声が反映できるため、注力すべきところに効率的に多言語表示に

取り組むことが可能である  
デメリット：事実確認が難しい

## 2. 翻訳（多言語表示）の依頼及び応答を有志で行えるネットワークの構築

メリット：依頼が出しやすく、必要とされているところに誰しもが貢献できる  
デメリット：経費がかかる 翻訳に正確を期すための確認作業に時間を要する

## グローバル化に向けた考察

私が多言語表示の不足に気付くことができたのは、日本語話者でないパートナーと密に時間を共にし、関係を築いたからこそであるが、日本語話者のみで生活していれば気が付かない人が大半だろう。多言語対応することは、分け隔てなく受け入れる姿勢を示すことにもつながる。そのため、より多くの人々が広い視野をもって様々なことに気付き、国や地域、施設側から歩み寄って多言語表示を取り入れることで、歓迎の精神を示して日本の衰退を押し留めるとともにひいてはグローバル化への近道にもなりえるだろう。

### 参考文献

- [1] 観光庁,多言語表示・コミュニケーションの受入環境について訪日外国人旅行者へのアンケート調査, [https://www.mlit.go.jp/kankocho/news08\\_000239.html](https://www.mlit.go.jp/kankocho/news08_000239.html), 2018

## 日本の国際化に向けての一歩とは

R. T. (九州学院高校 1 年)

### はじめに

私がこのプログラムで1番衝撃を受けたのは、日本の教育方針が海外と比べて古いやり方であるということだ。このやり方は、がむしゃらに働くことで物質的・経済的な成長を果たすことができた高度経済成長の時代のものであり、いまやり方を変えなければ今後の日本が進化せず成長が停滞してしまう。私たちが自ら学びのやり方を変えていく必要がある。

### 成長に向けた取り組みの提言

#### 1. アウトプットを重要視した学習

まず、日本の教育はアウトプットの機会が少なすぎるということが分かった。実際に、ある施設に足を踏み入れたら、その施設の中では英語だけでコミュニケーションを取らなければならないという崇城大学の英語を使った取り組みを見て、もっとこのような場を増やすべきだと考えた。

#### 2. 体験を重要視した自律的な学習スタイルの確立

次に、自分で考えて学習するような学習環境の確保が追いついていないと感じた。ドイツ人のパートナーに夏休みの宿題が大変だということと話してみると、「休みなのに課題があるの!？」と驚かれた。このことから私は、ドイツに限らず他国では机に向かった勉強よりも様々な経験をすることが今後の社会に必要であると考えた。

#### 3. 知識偏重というパラダイムからの脱却

私は、将来いい企業に就職するために学校の勉強だけを熱心にするのが今後の自分の人生の中で大切だと考えてきた。しかし、その考えは国際社会では非常に古い考えであることが分かった。国際交流を通して私はもっと積極的に海外の人と関わり一緒に意見を交換するべきだと思う。そのため、今後日本では英語で自分の意見とその理由を言えるように練習したり、洋画や洋楽を聞いてナチュラルな英語を知ったりするような教育が必要である。その教育が今後の日本を活性化し、国際化につながる第一歩となるだろうと考えている。

## まとめ

実際に海外の教育や考え方を自分自身で知ることによって、日本の教育について考え、それを見直すきっかけとなった。今ある日本の教育の現状が世界の常識とは異なるということ踏まえ、国際化に向けて変わっていくよう私自身、今後を担う人材となってイノベーションを起こしていきたい。



阿蘇の自然を満喫



浴衣を体験

## 「日本が世界で活躍する人材を輩出するためには」

Y. O. (真和高校 1 年)

### はじめに

私は今回ハイデルベルク市との青少年国際交流事業への参加を通じて、日本が世界で活躍する人材を輩出するには英語の教育により力を入れ、言語の壁を無くすことが第1歩だと考えた。今回の交流事業の期間中、参加者であり、互いにパートナーであるドイツ人と日本人がコミュニケーションをとる時は全て英語を使いコミュニケーションをおこない、ドイツ人同士、日本人同士で話しているときはそれぞれドイツ語、日本語を使っていた。つまり、英語がドイツ人と日本人を繋いでいる。

### ドイツ人パートナーと接して得た気づき

実際に1週間パートナーと接し、言語について感じたことがある。それはドイツ人と日本人の英語力の差である。パートナーは自分の言いたいことをほとんど英語で伝えることができていたが、私は聞き取ることではできても伝えたいことを英語で表現することは難しく、コミュニケーションにもどかしさを感じた。全体的に見てもドイツ人の方が日本人よりも英語力が高いと感じた。これは日本の英語教育に問題があるのではないかと考える。実際に日本人で英語を話すことのできる人の割合は10%程度[1]、ドイツ人で英語を話すことのできる人の割合は20代~30代であれば70%である[2]。このように日本は英語が出来ないことで世界の中で最新の情報を入手したり、国際間での交渉や取り決めを進めたりする点で、遅れを取りつつあるのではないだろうか。

言語人口に着目すると日本語人口は1.7%、ドイツ語人口は1.1%。このことから母国語だけを習得しても世界の人と繋がることは難しい。一方英語人口は21%であるため、英語が話せると世界の人と繋がりを持ち、グローバルに活躍することができると考えられる[3]。このことから2つのことを意識すると良いと考える。

### 英語習得の促進に向けて

1つ目は聞く、話すことを重視した英語教育だ。ドイツでは聞く、話すことを重視した英語教育が行われている。多くの日本人は文法を気にし、完璧な英語で話そうとするため消極的になりやすい。聞く、話すということに自信を持つことが出来ればより積極的にコミュニケーションを取りやすくなり、日本人の活躍の場が広がるだろう。

2つ目は世界の人とコミュニケーションをとる楽しさを知ることだ。パートナーは、私  
があまり上手く英語を話せないかもしれないと言うと「まずは話してみることが大切！い  
っぱい話しかけてね！」と言ってくれた。それから、意識して色々な人に頑張って話しか  
けていると相手もできるだけ簡単な英語で言い換えたりゆっくり話したりしてくれたり  
と話しやすいようにしてくれた。まだ拙い英語でのコミュニケーションではあったが、自分  
の世界が広がった様に感じ、とても楽しかった。

### 世界で活躍できる日本人へ

日本には和の文化やおもてなしの心など海外に誇  
れるものがたくさんある。日本人が英語力を向上さ  
せ、積極的に楽しくコミュニケーションを取れるよ  
うになり、今以上に世界に出られるようになればも  
っと日本の良さを知ってもらえるのではないだろう  
か。そのためにも国際交流は重要なカギとなると考  
える。今回の国際交流ではとても貴重な体験をする  
ことができ、異文化間での友情も感じる事が出来  
た。もっと色々な人にも体験してもらいたいと感じ  
た。そのために私は SNS や来年春から始まる予定の  
エフエムラジオ局のレギュラー高校生パーソナリテ  
ィーとして発信していきたい。



お茶を点てているグレーター

### 参考文献

- [1] オンライン英会話比較 PLUS, 日本人で英語が話せる割合は 10%前後? 英語力が高い  
国と日本の英語教育を比較して解説, <https://www.ikubundo.com/media/nihonjinn-eigo-wariai/>. 2023/10/31 閲覧
- [2] Wikipedia, 国別英語話者数ランキング, <https://ja.m.wikipedia.org/wiki/%E5%9B%BD%E5%88%A5%E8%8B%B1%E8%AA%9E%E8%A9%B1%E8%80%85%E6%95%B0%E3%83%A9%E3%83%B3%E3%82%AD%E3%83%B3%E3%82%B0>. 2023/10/31 閲覧
- [3] Tsedal Neeley, Global Business Speaks English, Harvard Business Review, 2012.

## 国際交流の意義と成果

### A. I. (一ツ葉高校1年)

#### はじめに

本報告書では、ハイデルベルク市と熊本市の交流事業の意義、事業を通じた私自身の気づき、そして将来への展望などについて述べる。

#### 交流事業の意義

私は、国際交流が異なる文化や価値観を理解し共有する貴重な機会であり、これが両市、さらには世界の発展につながると信じている。

現代社会では、国際的なつながりがますます重要視されている。特に日本では2007年から2021年にかけて15年連続で人口が減少しており[1]、国際的なつながりの重要性は他の国と比べて高いにもかかわらず、日本において外国人との交流機会は限られている。実際、外国人と接したことがないと答えた人の割合は38.5%に達している[2]。これは日本において文化や価値観の違いを理解する機会が不足していることを示している。

そのような状況の中で、この交流事業は若者に対して異なる文化を体験し理解する機会を提供することで相互理解を促進し、偏見や誤解を解消することで、人口減少や貧困、環境危機などに直面する国でも次世代を担う人々が国を超えてつながり、世界を発展に導くためのきっかけとなると考える。

#### 交流事業における成果

今回の交流事業では、ハイデルベルク市の方々を熊本市に招き、日本の文化や生活に触れる機会を提供した。同様に、来年には私達がハイデルベルク市を訪れ、その文化や習慣を学ぶ予定だ。このような交流活動によって、私は以下のような成果を得た。

#### 1. コミュニケーションと言語の関係



朝食を取るドイツ人パートナー

今回の交流事業において、コミュニケーションでは言語の理解が欠かせなかった。しかし、自分が考えているよりも身振り手振りで意思疎通ができたことに驚いた。調べたところ、コミュニケーションにおいて言語の割合は25%にすぎず、残りの65%は話し方や動作、相手との間のとり方、つまり身振り手振りなどによって伝えられることがわかった。[3]。意思疎通のための様々な方法を考えることで、自身のコミュニケーションスキルの向上を実感した。

## **2. カルチャーシェアリング**

私達は、自身の国や文化についてハイデルベルク市の方々と話した。これにより、異なるバックグラウンドを持つ人々がお互いの文化に触れる機会を持ち、多様性への理解が深まった。交流の中で、それぞれの国の料理や音楽、祭りなどが共有され、私達は様々な視点から学びを得ることができた。

## **3. イノベーションへの影響**

この交流事業はイノベーションの促進にも役立つ。異なる文化や価値観に触れることで、既存のアイデアに疑問を持ち、新たな視点から課題や解決策を見つける力を身につけることができる。また、国際交流から生まれるアイデアや経験が、地域のビジネスや文化の発展に影響を与える可能性もある。

## **4. 実際の交流による学び**

今回の交流事業によって、教科書やインターネットでは得られないような知識を得た。例えば、広く使用されているメッセージアプリや流行、ファッションの違いなどを知ることができた。また、とても真面目なところなど日本人との共通点も知ることができた。このような日本人との共通点や異なる点を通じて異文化への理解をより深めることができた。

## **今後の展望**

来年には、我々熊本市の団員がハイデルベルク市を訪れる予定だ。これにより、今回の交流事業で築かれた友好関係を更に深めることができる。また、双方の市民が相互の国を訪れることで、現地の生活や文化をより深く理解する機会を得ることができる。さらに、来年のハイデルベルク市訪問に向けて、私はドイツ語を学習し、スムーズなコミュニケー

ションができるように努力する。

## まとめ

ハイデルベルク市と熊本市との交流事業は、異なる文化を持つ人々が共に学び合い、交流する貴重な機会を提供した。言語の壁を越えたコミュニケーションによって、ハイデルベルクの方々との友好関係を築くことができた。今後もこの交流事業を継続し、より多くの人々が異なる文化を理解し合うような、学びの場を提供していくことを望むとともに、自身も日々新しいことに挑戦し知識と経験を積み重ね、その学びの場の構築に貢献していきたい。

## 参考文献

- [1] 総務省統計局, 総人口推計 (2021年 (令和3年) 10月1日現在) -全国: 年齢 (各歳)、男女別人口・都道府県: 年齢 (5歳階級)、男女別人口-, 全国人口, <https://www.stat.go.jp/data/jinsui/2021np/index.html>. 2023/08/26 閲覧
- [2] 埼玉県, 第181回簡易アンケート「外国人との共生について」の結果を公表しました。、外国人とのコミュニケーション手段について, <https://www.pref.saitama.lg.jp/a0306/tabunkakyousei/supportersurveyr3.html>. 2023/08/26 閲覧.
- [3] マジヨリー・F・ヴァーガス, 石丸正 訳, 『非言語コミュニケーション』, 新潮社〈新潮選書〉, p15, 1987.

## 異文化への誠意

T. M. (熊本学園大学付属高校 1 年)

### 国際交流は必要だが...

グローバル化が進んでいる。もはや現代は、自国だけが経済発展を遂げればよい、という問題ではなくなっている[1]。SDGs で定められた目標を達成するため、進行する地球規模の問題に対応するため、全世界の人と協力しなければならない。そのために、感受性に富む若い年代のうちに国際交流を行う事は非常に重要だ。

しかし、日本の国際交流の現状は、芳しいものであるとは言いにくい。大学生のうち、一年以上の海外留学を経験している割合は約 0.3%と推定されており[2]、非常に低い水準となっている。その原因は何かを問われれば、違う言語を話す人とコミュニケーションをとることへの不安というものが真っ先に思い浮かぶ人も多いのではないだろうか。では、「言語の壁」と呼ばれる課題をクリアすれば、国際交流はより盛んになるのではないか。

### 「言語」の壁なのか

この私ならずとも多くの日本人が感じるであろう、違う言語でコミュニケーションを取る際に感じる不安について、私は 1 つの疑問を持った。言語というのは、コミュニケーションツールの一つであるはずだ。であれば、言語の目的は相手とコミュニケーションを図ることであって、コミュニケーションが成立すれば、言語以外の方法でも理解をすることができる。メラビアン<sup>1</sup>の法則を用いれば、コミュニケーションにおける言語情報の割合は 7%であって、視覚情報の 55%や聴覚情報の 38%に比べ、圧倒的に小さい割合だ[3]。であれば、「言語の壁」というのは広義的に「意思疎通の壁」というふうに置き換えられるのではないだろうか。つまり、今の日本人は、コミュニケーションの内の 7%が阻害されることを嫌って、国際交流と距離を取っているのだと思う。意思疎通さえ成功させれば、その不安は解消されるのだとも思う。

### ハイデルベルクメンバーとの交流を通して

ここで、今回の交流事業に参加することで、初めて私が経験した具体的な話に入る。単刀直入に言って、今回の約 1 週間の交流を通して、ペアであるハイデルベルクの男子高校生とお互い英語だけでコミュニケーションを成功させた例はほとんど無かったと言っている。ほとんどの場合において、身振り手振り、また表情など、主に視覚情報で必要なもの

を補ってお互いに意志を疎通してきた。身をもって、言語情報が担える物の少なさ、またそれ以外の情報の重要性を知ることが出来た。

では、何故私とペアで、言語情報以外でのコミュニケーションに成功することが出来たのか。それは、相手への「誠意」だったと思う。

## 誠意

最終的に帰着したのは、たとえ日本人同士であったとしてもコミュニケーションの根幹を担う部分、誠意だという考えだ。言語情報というのは、うがった見方かもしれないが、誠意を欠いた状態でもその形を作ることができる。誰かへの嘘、事前に用意されたメモを読み上げるだけの答弁、他者への攻撃。それら、自分の正直な気持ち、感情とはかけ離れた物を、言語情報は簡単に生み出すことができる。一方で、身振り手振り、表情は、自分の感情とより直接的な関係を持つ。よっぽどポーカークフェイスが上手くなければ、悲しみの底に沈んだ時に涙を堪えるのは難しいし、喜びを分かち合っている輪の中でずっと放心したような真顔でいるのは簡単ではない。

「あなたの事を理解したい」

「こちらの正直な感情を表現するから、あなたも応えてほしい」

という感情、誠意に基づいて、自分を動きや表情に乗せてさらけ出すこと。それが出来たのが、私がこの交流でコミュニケーションを成功させたことの最大の原因であったと振り返っているところである。

## 私の変化

私は、あまり感情を表に出すことを好まない性格だ。あまり明瞭に覚えているわけではないが、表に出した結果それを否定された昔の経験からそうなったんだと思う。それはこの交流を終えた今でも変わらないし、いつかひょんなことから突然変わる、なんていう事は無いんじゃないかと思う。でも、この交流を通して学んだ事。それは、「私は好きじゃない。でも、大事なことではある。」ということ。得意じゃないし、好きでもないけれど、不器用なりに感情を表現しようとしてみる。それこそが私が相手に向けることのできた誠意であり、その結果、たとえ異文化の相手であったとしても一緒に笑ったり、楽しんだりすることが出来た。そして、この報告書を読んでいる私の知らない誰かにも、誠意が大事だと、私からの勝手なアドバイスをしたい。少し勇気を出して相手に伝えた先に、相互理解の道が開けるはず。私は、そう思う。

- [1] 経済産業省, 通商白書 2020, <https://www.meti.go.jp/report/tsuhaku2020/index.html>, 2020.
- [2] ココア留学, 大学生の留学経験者の割合 3% ! 大学生がヤバイ本当の理由 ! , <https://55a.info/contents/study-abroad/university/abroad-rate.html>. 2023/10/9 閲覧.
- [3] Albert Mehrabian, Silent Messages, Wadsworth Pub. Co., 1971.



コミュニケーションが上手くいったことで、  
日本の文化を一緒に楽しむことができた私たち

## 海外マインドに学ぶ強かな生き方

### K. I. (東稜高校 2 年)

#### はじめに

今回の交流の中でドイツと日本の国間の違いを知り、両国の良さを改めて感じる事が出来た。パートナーとの交流を通して、日本で過ごす中で日常的に目にしていたものや当たり前だと思っていたことに対して、自分とは異なる見方があることに気づき、その中から生まれた疑問や発見は感性を刺激するものだった。

また、交流する中で特に強く感じたのがドイツと日本間での「性格」の違いだった。この要素から今後日本で生きていく中で日々の生活に取り入れたいと感じ、取り入れることで実際にどのような効果が得られそうかを考察する。

#### 性格

まず日本人の性格として一番に挙げられるのが謙虚なところである。日本人が慎ましい性格であるということは世界でもよく知られており、謙虚が美德だとも言われている。一方でドイツ人は自分の意思をしっかりと持っており自己主張ができる。「あなたはどうしたい?」と聞いたら「私はこうしたい」と必ず返ってくる。

#### 探究心

ハイデルベルクの団員は興味関心(探究心)が強い。例えば、わたしのパートナーの事業への参加理由が「新しい場所で異なる国の人たちと色々なものを見てみたい」というもので、日本への関心から事業に参加していた。あらゆる視点に興味を持ち実際にチャレンジをするという姿勢を感じた。

他にもハイデルベルクの団員はどんなことに対しても「これはどういうことだろう」「何だろう」と探究心を持っている印象だった。ハイデルベルクの団員の推測を聞いて日本の団員が「なるほど」と納得したり「そういう考え方もあるのか」と驚いたり、その上でドイツと日本とで観点が違うように感じることも多々あり、私自身も日本のものやことについてと興味が湧くようになった。

日本では、新しいものは気になるが、気になる以上に、知らないものに手を出すのは怖いという認識がある。「私だけがこのことをやっているのではないだろうか」「このことをすると他からどう思われるだろうか」など、集団から見た自分という、自分を個人ではなく組織の中の自分として捉えてしまうからではないかと考える。人と自分との間に境界線

を引き、意見を持って主張することでイノベーションを起こすことに繋がるのではないかと思う。

## 男女平等

ハイデルベルクの団員と交流していると、女子も男子も平等という空気を度々感じた。水球やバスケット、バレーなどのスポーツを男女問わず参加し、ハンデをつけるわけでもなく性別も年齢も気にすることもなく容赦なしにプレイしていることに驚いた。日本では性別で区別する場面が多いため、ハイデルベルクの団員たちの行動が、性別で区別するのではなく、楽しいから参加する、一緒にプレイしたいから交ざるといったように、一緒に行動する相手や会話をする相手をその時その時の相手として接しているように感じた。そんな風に、型に囚われない、先入観のないということが互いを個々として尊重し、アイデンティティを確立させているのだろうと思う。

## 考察

まとめると、これからの人生に取り入れたいことが多くあったが、その中でも個人という言葉がキーワードになっていると思う。誰かの周りという立場からできること、自分という立場からできることをひとつずつ挙げる。

まず、誰かの周りという立場からできることは、相手を尊重することである。日本人という括りの中だけでも多くの性別や年齢、意見など障害物や違いが存在する。それらの違いを排斥するのではなく容認し尊重することで、主張しやすく、個性が出しやすくなるという効果が得られる。

次に、自分という立場からできることは意見を持つことである。文字に起こすとシンプルだが、集団行動が常識の日本人の私たちにとっては誰かに合わせるのではなく、自分の意見を持つというのは簡単ではない。しかし、ひとりひとりが自身の意見を持つことで、多くの考えが生まれ、意見が交差し、大きな変化を生み出すのではないかと思う。

## おわりに

ドイツと日本には多くの違いが存在する。「違い」と聞くと敬遠しがちになってしまうが、違いを知ることによって面白い発見をすることができ、自分自身への刺激となる。ドイツと日本との違いをお互いの特徴として尊重するだけでなく自分の中に取り入れること

でレベルアップへと繋げることができ、新しい価値観や考え、イノベーションが生まれるのではないかと思う。



ハイデルベルクの団員と日本の祭りである火の国まつりに参加している様子。交流団員全員でおてもやんを踊った。

## 挑戦することが大切

K. N. (開新高校2年)

### はじめに

私は今回の交流事業への参加を通して特に自分と同じ年代の若者が成長するうえで何が大切なのかを知ってもらいたくこのレポートを作成しました。ズバリそれは「挑戦すること」です。

### 団員に応募

高校入学当初の私はどこにでもいる高校生で、学校で淡々と過ごす日々、変わりばえしない生活をおくっていました。でも私が所属しているクラブの活動でボランティアや英検などを行っていくうちに「もっと何かしたい」「自分を成長させたい」という気持ちが生まれました。

私は英語が話せるわけでもなく、明確な将来への目的があったわけではありません。私は「他国の人とつながれば何か成長できる」という自己成長意欲だけで応募しました。実は、私はこの交流事業会ではコミュニケーションや活動のなかでさまざまな失敗をするつもりで応募しました。これまで交流事業会などに参加したことなく、外国人との接点がほとんどない私には他国の人との接し方も分からなかったからです。

### 交流・学び

私が交流ですぐにわかった事は言葉が使えなくともコミュニケーションは取れるということです。私は英語で話すことが苦手だったため、聞くことに専念し、返答するときにジェスチャーを使いました。それだけではあるけれど、相手に親近感を与えることができたと思います。ポイントは身振りだけでなく顔や声のトーンなどにも工夫を加えて感情が伝わるようにすることです。さらに、相互関係を深めるために他の日本人の高校生団員の子や通訳の方を頼るなどしてコミュニケーションを取りました。

問題は「ホストファミリーとの日」でした。この日は頼れる人がいないので不安でいっぱいでした。ところがこの日私は自分自身に驚かされました。今までの私では信じれないほど英語で会話することができました。この時話すってこういうことなんだなと感じる事ができました。

なぜこのようにいきなり話すことができたのか？私は追い詰められた状況で話す必要がある場に立ったからだと考えます。感覚としては気持ちを伝えようとするということです。その

時に文法のことなど考えず、知っている単語で話すではなくシンプルに気持ちを伝えることが大切だと気づきました。

### 得た気づきを用いてこれらのクラブ活動内容を変革

私は ESS という英検の対策をしたり、英語のゲームで遊んだりするクラブに入っています。

今回、自分自身の体験、すなわち話す必要がある場に自分のみを置くことで外国語を身につけることができたことから、そのクラブに「英語で話す部屋」や英語で買い物したり、英語でボランティア活動をしたりする活動を導入していきたいと考えています。現在このクラブの活動では英語を身近に感じる機会が少ないことが問題なのでこのように日常に英語を持ち込む活動は効果があると考えました。

実際に日本での英語教育は和訳や単語文法の勉強ばかりしていて問題があるとされています。私がクラブでの活動を改革し、日常的に英語を話す機会をうみだすことは、クラブのメンバーたちに英語で話す楽しさを知ってもらえたり、私にとっても来年の夏のハイデルベルク訪問に向けた取り組みになったり、将来においては大学教授や就職活動における面接などでも大きな強みになると思います。



言語や文化の壁を越えてつながることができた仲間たち

## まとめ

私は今回の交流事業への参加を通じて、特に積極的に行動し、進んで英語で（ときにはジェスチャーを多用して）コミュニケーションを取るという、これまでの私に取り組んだことのない大きな挑戦を行いました。そしてこの挑戦で大きく成長することができました。自分に起きた変化や、クラブの活動を改革しようというアイデアが生まれたことを考えると、新しい活動を生み出す考えは挑戦による経験からしか生まれません。

この経験から挑戦することは、何らかの「気づき」や「驚き」を与えてくれるとはつきりと言えます。挑戦するのが「怖い」「失敗したくない」と思う方もいるでしょう。ですが私は失敗してもいいんだと思います。失敗して成長すればいいし学ばばいいと思います。

「挑戦することは自信や知識を生み出し、それらは自分自身の成長の糧（かて）になる」

だから私は挑戦することが大切だと思うのです。これからの自分の人生を切り開くために、挑戦することを続けて行きたいと思います。

## 参考文献

- [1] 明光ネットワークジャパン、日本の英語教育の問題点は？国際比較とこれまでの変遷について紹介, <https://www.meikokidse.jp/blog/culture/blog-2633/>. 2023/10/09 閲覧.

## 「変化・成長を掴んだ一週間」

S. N. (熊本高校2年)

### はじめに

今回の交流事業は私にとって「完璧を求めない姿勢の大切さ」を深く実感するものとなった。初日、私は自分自身を情けなく思った。そのときの私は相手に英語できちんと伝えることを優先し「コミュニケーション」を忘れていたからだ。自分の英語に自信がなく、心のどこかで完璧に話せるまで話してはいけないという固定概念があった。

### 感じた変化と成長

「これから一週間、楽しく過ごせるのだろうか」という不安を感じた一日目。しかし私はこのことから学んだことがある。それは「完璧を求めない姿勢の大切さ」だ。英語でコミュニケーションを取る際、私は常に0か100、つまり「文法的に誤りがないか」「今から話す自分の英語に不安がないか」という基準を自分の中に作ってしまい、それらの基準を満たしているのかばかりを気にして積極的に会話できなかった。そのような姿勢でコミュニケーションが自分自身、そして相手にとっても楽しい機会となるはずがない。

そこで私は、文法は気にせず知っている単語をとにかく繋いで伝えることに重点を置くという目標を立てた。もちろんどうしても英語がわからないときは翻訳アプリを使った。しかし相手に伝えるときは、アプリを通じてではなく自分の言葉で伝えるようにした。最初は慣れず、緊張もあったが次第に「どうにかなる」と肯定的に捉えられるようになり、自分の成長を確実に感じる事ができた。

### 成長を目標の実現へ

私の将来の目標は国際機関で働くことだ。各国とコミュニケーションを重ね、世界の足並みを揃えて環境、紛争などの諸問題の解決へと導くことが重要な役割である。大学で学び、英語などの外国語で専門的な話し合いができることが大前提だが、難しさを感じたときに役立つのは「完璧を求めない姿勢」だと私は考える。完璧を求めて、相手と話そうとしなければ何も始まらない。

### 最後に

今回、多くの反省があったが後悔はひとつもない。そして、この交流事業は私が確実に

変化や成長を感じた貴重なものとなった。ここで手に入れた成長を止めずにこれからも続けていきたい。



初日に訪れた熊本城  
当時の感情が鮮明に思い出される



2日目 川遊びやバーベキューをして  
言語以外でも仲を深めることができた

## 言語の壁を超えるもの

K. Y. (済々黌高校 1 年)

### 私とパートナーを繋いだもの

今回の交流事業を通して学んだことは、好きなことは言葉を超えて良い関係を生むということだった。

私のパートナーは男の子で、うまくコミュニケーションをとっていけるか不安なときもあり、案の定、言いたいことをうまく伝えられずに焦るときもあった。ただ、私とパートナーの間にはサッカーという共通の好きなことがあり、お互いの好きな選手やチームについて話せたときは、英語こそうまく使えなかったものの、はじめて本当に通じ合えた気がした。自分の英語力の欠如に気づいた反面、好きなことや趣味は国境をこえて人と人をつなぐ、言語よりも大切なものなのではないかと思った。

### 言葉をも超える力

文化庁の報告 [1] をはじめ、インターネット上の資料では、海外の友達を作るには共通の話題を持つことが大切だと記されているものが多い。それは政治や社会情勢はもちろんだと思うが、より仲を深めるには趣味の話が一番適していると思った。日本のアニメや漫画が好きな海外の人とは、それらの話で盛り上がることができる。SNS を利用していると、アニメやスポーツの題材を取り上げているコンテンツの中で、様々な国の人々が共通の話題についてそれぞれの言語でコメントしあっているのをよく見かける。「オタクの力は世界を救う」と言われているように、スポーツや音楽、アニメなどの共通の話題によって、言語の壁を超えて世界の一体化を図ることができると思う。

### ハイデルベルク市訪問に向けて

来夏、私達は各々のパートナーと 1 年ぶりに再会する。今年の交流では自分の英語力の低さを痛感したため、約 1 年かけて更に英語力を向上させたい。ドイツ側のメンバーたちが「ありがとう」、「いただきます」などの日本語を話しているのを聞くとやはりとても嬉しいものだった。だから私もドイツ語を学んで、少しでもドイツ語で話せたらと思う。また、異文化交流カフェをはじめとして、海外の方と関わることのできる取り組みにたくさん参加して、英語で話すことにももっと慣れたい。

今回の交流事業で、元々興味があった言語の勉強や、将来像についても沢山イメージすることができた。私は将来たくさんの言語を勉強して、将来は留学、加えて海外で生活で

きたらと考えていた。実際に海外の方と関わったこと、そして来年海外の生活に触れる機会があるから、この機会を活かして更にイメージを膨らませていきたいと思う。

#### 参考文献

[1] 文化庁, 今後の国際文化交流の推進について (報告) , [https://www.bunka.go.jp/tokei\\_hakusho\\_shuppan/hakusho\\_nenjihokokusho/archive/pdf/93775501\\_01.pdf](https://www.bunka.go.jp/tokei_hakusho_shuppan/hakusho_nenjihokokusho/archive/pdf/93775501_01.pdf), 2003.



天草でのイルカウォッチング



初めて見る日本のお城に興味津々でした

## 悔しさをばねに～私の成長に向けて

M. S. (クラーク記念国際高校1年)

### はじめに

今回交流をしながら今の自分の英語の実力とコミュニケーション能力、海外の人と日本人の考え方の違いをよく知ることが分かった

パートナーと英語で会話をしながら自分の英語が伝わらずジェスチャーで伝える方がほとんどで会話のキャッチボールができなかった。そのうえ、ジェスチャーでもほとんど伝わらず心が折れ会話を避けていることがあった。英語が分からないのではなく英語を間違っ  
てしまい、自分が伝えたいことが誤って捉えられてしまうことで、互いの関係が壊れて  
しまうことが怖く会話に積極的になれていなかった。

### 開かれた日本における自分の挑戦

これから日本には海外からの人がたくさん来ると思う。最近コンビニに行くと店員さんが全員海外の人だったり、熊本にはTSMCができたりしてさらに海外からの人が多くなるのではないかと考えている。そんないろいろな国から観光客や移住する人が増えてきて国際的な世の中になっていくのに、私の英語力やコミュニケーション能力が今のままだときつ  
と今回の活動の時と同じことの繰り返しになってしまうと思う。

そうならないためにも今回私が満足できなかったコミュニケーションの取り方や英語力をもっと高めていく必要がある。そのためにはもちろん英単語を覚えることや文法を覚えることも必要だが何よりも自分に自信を持つことが大切だと思った。ドイツ人のみんなと話しているとみんな自信を持ち自分の伝えたいことをしっかりと言葉にできていた。だから表情から分かることも多くすぐく会話がしやすかった。

### 挑戦の先にあるドイツでの夏

自信を持つと自然と顔も笑顔になるし相手にも伝わりやすいと思う。結果私は今回の交流事業で悔しい思いが大きかったから次私たちがドイツに行く時までには今回悔しかったことを全部見直して悔しい思いをしないように頑張ろうと思う。



かじかの森にてみんなでBBQ

## 英語の壁は分厚かった

M. I. (必由館高校2年)

### 交流後の自己評価

まず、私がこの交流事業で一番に感じたことは自分自身の英語力の低さだった。私は高校で英語を他のコースより多く勉強する国際コースに所属している。そのため、周りには英語ができる人が多く、その環境にいるため自分は英語ができると思っていた。でも実際は全くできなかった。

次に自分の自信のなさを痛感した。英語力の低さだけでは説明のつかない積極性が欠如した自分に気づき、このままではいけないと思った。

### 日本の英語教育の現状

私が考える国際交流の目的は、日本人以外の人々と意思疎通を図り、お互いの文化に直接触れることで言葉や文化、主義など互いの違いを認めながらも自らの考えを主張し合い、より良い社会を築いていく努力をすることと思う[1]。日本の英語教育は「聞く、話す、読む、書く」に重点を置いていると言われるが、実際のところ、文部科学省が実施した2023年の全国学力テストから「書く、聞く、読む」の正答率が20%~50%なのに対して「話す」は12.4%という低さである[2]。確かに学校では「読み、書き」が中心的で、自分で考えて喋るなどの自主性を重んじる授業や活動は少ないように思う。

### 私の努力の方向

このことから日本教育は話す=コミュニケーションをとることにもっと力を入れるべきだ。でも力を入れたとしても喋れない人は多くいると思う。なぜか？それは、英語を喋る自分自身の姿にイメージできないのに加えて自信を持ってないからだ。そのため意思疎通がはかれた時の達成感を味わうと、少しでも自信になると思う。伝わらなかった時でもどのように言い換えるといいのかなどの発見も生まれる。

私も、英語を喋ることに不安を感じていた時があったが、たくさんの外国の方や今回のこの事業でパートナーやドイツのみんなと関わっていく上で何をしてでも伝えようと自信に繋がっている。さらなる自信を持つためにまずはドイツのパートナーと連絡を取り合うことが大事である。これを行うことでさらなる英語学習に対するやる気も生まれる。また、意思疎通を図るためにはお互いの文化を知っておく必要もある。そのため、ドイツがどのような文化であって日本との相違点を知ることが大切だ。

## 努力の成果

不安を感じながらもドイツのパートナーとコミュニケーションを自主的に継続していけば、将来的には社会的に広い視点や多くの繋がりを持ち、それに適応し、異なる文化や意見を受け入れた新しい自分の姿が想像出来る。また、自分が今まで普通だったことや気にしていなかった些細なことにも気にかけることができるようになるかもしれない。そのような幅広い細かいことを考え、気にすることが出来た事業だったと私は思う。

大きな英語の壁にぶつかったことで学べたことも沢山あった。寧ろ自分にとっては、プラスな事ばかりだった。今年も最高だったが来年はもっと最高になりそうだ。



ハイデルベルクでは普段は禁止の花火を思う存分楽しむ

### 【参考文献】

- [1] PRTIMES, 「IIBC「英語のスピーキングに関する実態と意識」調査結果を発表」, [https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000026.000051295.html](https://prt看imes.jp/main/html/rd/p/000000026.000051295.html). 2023/10/09 閲覧.
- [2] 文部科学省, 2023 年度全国学力テスト, <https://reseed.resemom.jp/article/2023/08/01/6921.html>. 2023/10/09 閲覧.

## 5. まとめ

令和 5 年度（2023 年度）熊本市・ハイデルベルク市青少年交流事業では、ハイデルベルク市青少年団体連絡協議会、必由館高校、崇城大学 IoT・AI センター、蔦屋書店熊本三年坂（ニューコ・ワン）、熊本城ミュージアムわくわく座、SCB ラボなど、多くの団体の協力のもと、多様な交流をおこなうことができた。

次年度は、熊本市団員がハイデルベルク市を訪問しホームステイを通じた交流が予定されている。今回構築した団員同士の関係性はもとより、協力団体との良好な関係性を保ちながら友好都市盟約締結から 31 年目となるハイデルベルク市との青少年国際交流事業を推進し、国際交流を通じたイノベーション人材育成に取り組んでいく。

## 参考文献

- [1] 一般財団法人 自治体国際化協会, 自治体間交流 姉妹（友好）都市提携数, <https://www.clair.or.jp/j/exchange/shimai/index.html>, 2023.
- [2] 一般財団法人 自治体国際化協会, 姉妹（友好）都市提携に基づく自治体の国際交流について（結果概要）, [https://www.clair.or.jp/j/exchange/docs/shimaitoshi\\_gaiyo.pdf](https://www.clair.or.jp/j/exchange/docs/shimaitoshi_gaiyo.pdf), 2023.
- [3] 文部科学省, 産学連携によるグローバル人材育成推進会議, 産学官によるグローバル人材の育成のための戦略, 2011.
- [4] 令和 3 年度（2021 年度）熊本市・ハイデルベルク市青少年交流事業オンライン交流の記録（活動報告書）, 2022.
- [5] 令和 4 年度（2022 年度）熊本市・ハイデルベルク市青少年交流事業オンライン交流の記録（活動報告書）, 2023.
- [6] 独立行政法人経済産業研究所, 「融合領域」プログラムについて, [https://www.rieti.go.jp/jp/projects/program\\_2020/pg-08/about.html](https://www.rieti.go.jp/jp/projects/program_2020/pg-08/about.html). 2023/10/31 閲覧
- [7] 星合 隆成, つながり科学 地域コミュニティブランド, 木楽舎, 2018.
- [8] Peter Densen, Challenges and opportunities facing medical education. Trans Am Clin Climatol Assoc. 2011.

## 付録 1 メディア出演及び関連活動の記録

[メディア出演 1] 2023年8月16日 崇城大学IoT・AIセンターウェブサイトにて紹介



[メディア出演 2] 2023年8月24日 熊本シティエフエム出演



[関連活動 1] 2023年12月9日 DX シンポジウム 2023

高校生向けイノベーション創発イベント「つながりを科学する座談会」出場



Y. O. 団員



K. N. 団員



A. I. 団員



R. Y. 団員

[関連活動 2] 2023年12月10日 SDGsQUEST みらい甲子園熊本大会エントリ



SDGsQUEST みらい甲子園  
ウェブサイト

- 2023/11/19 今日の議題
1. 報告書の確認
  2. つなかりを併学する運動会
  3. SDGsQUEST未来甲子園
  4. 熊本日原協会から、青少年イノベーションリーダーの報告会を、ハイデル団員たちが希望するならば、会場を貸し切って開催していいですよとのオファーを受けるか？

欠席 [redacted]

奈城ピシコン1次審査バス  
ユニセフシンポジウム (パネリスト) 原稿作成 11/29水  
ハイデルとのやり取り & 外国人とのチャットアプリ  
ペアと会談、ESS、SDGsアイデアコンテスト  
九州場所参観、ひびくまでの国際交流 (解せい高校・しようけい高校留学生)  
1月から九州大学 (短期1か月・スプリングフェイェルト)  
個人でブラジリアの研究 (イオチ子園予選) 入選・先々週決勝日本4位  
水と向きユニセフシンポジウム (パネリスト) 原稿作成 11/29水  
英検受験2級お祝いしよう  
ドイツ研修後、文化祭と体育祭 応援団 (帝国) 優勝! 台湾NEHSから女子学生  
9月に英検の勉強大会出場 (1か月間練習)

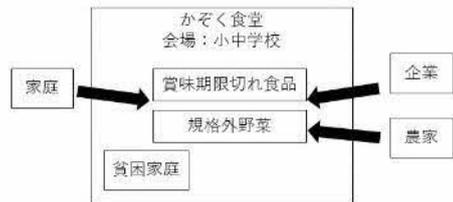
2023/11/26 今日の議題  
SDGsQUESTみらい甲子園 提案内容について  
前回の議題  
SDGsQUEST参加希望者 [redacted]  
日本または世界におけるSDGsの観点と見た社会問題のうち、自分が解決したいと考えるものを挙げてください。  
・なぜ、その問題に取り組みたいのか?  
・その問題に関する先行事例  
・(できれば) 自分ならではのユニークなソリューション

1. 各人の提案内容を確認
  2. 提案に対してそれぞれコメント
- サポート役をしたい  
エネルギー問題の解決  
「砂漠で発電」理由: 昼夜の温度差で発電する「熱伝発電」  
120度の温度差 = 夏用機20度で発電量倍増あり  
熱伝発電の先行事例なし = 砂の発電 (フィンランドの事例)  
ソーラー発電の差別化 = 地中に設置可能  
・ドイツでの古石新熱発電事例  
・市の温度差発電
- [redacted]: 二酸化炭素 = 温暖化の原因 二酸化炭素を逆手にとって発電  
二酸化炭素を吸収して電気化 (先行事例あり?)  
[redacted]

[redacted] /  
二人とも同じ!  
15&4 外来生  
二人で釣りに  
小さいころと  
外未生物を利用  
イベント:  
・肥料の製造  
・畜産 = 生物の  
・カーリウォー  
・肥料と  
肥料と  
イノベーション:  
高校生 (探求  
小5から3  
1年生生物とか  
(市立では教  
全世代 (子供  
まだ未定  
社会全体での  
次の世代にも  
課題  
モチベーション  
アプリ開発?  
富良  
40年後は公認  
自然に下の世代  
やりたくなる

2023年11月19日・26日・12月3日  
提案内容ブラッシュアップ会議実施

食品ロスと貧困をなくす



講演会・食教育  
(誰が主催し、だれが講師になって、誰に対して講義するの?)  
貧困家庭は喜ぶの?

かぞく食堂の主権者はだれ?  
誰が調理するの?  
なぜ家庭や企業、農家は食品を提供し続けるの? どんなメリットがあるの?  
学校でかぞく食堂を開催したら貧困家庭は喜ぶの? プライドが損なわれない?  
内蔵から  
子ども食堂という手法を家庭全体に適用するアイデアは面白いが、1回限りのイベントにとどまりそう。持続化するためには企業や農家、家庭について参加し続けるどんなメリットがあるのか?

Whyなぜこのプロジェクトが必要なの?  
Whenいつ? Whereどこで? from Who誰が? to Who誰に対して?  
What何を? Howどうやって? Effectどんな効果があるの?

「貧困をゼロに」提案の原案

[関連活動 3&メディア出演 3] 2024年2月2日/2月9日/2月29日 高校生企画レギュラー番組「高校生〇〇開花」 on 熊本シティエフエム番組収録



2月放送分収録の様子



3月放送分収録の様子



4月放送分収録の様子

2024 Global Youth Initiative Human Resource Development Fund on February 23, 2024

FLY Kumaokota Youth Initiator

### 高校生が企画するレギュラーラジオ番組「高校生〇〇開花」 | High school students planning a regular radio program, "High School Students XX Bloomers".

番組概要 | Overview of the Radio Program

**目的**  
 世界におけるインターネットを通じての高校生間の交流を促進し、国際的な視野を養う。また、ラジオ番組制作を通じて、コミュニケーション能力を向上させる。

**番組内容**  
 毎月1回の放送。1回15分程度の収録を行い、収録された音声を編集して放送する。

**放送開始日**  
 2024年2月2日 (第1回) / 2024年2月9日 (第2回) / 2024年2月29日 (第3回)

**放送時間**  
 毎週金曜日の午後10時から10時30分 (JST)

**放送場所**  
 熊本シティエフエム (Kumamoto City FM)

**制作スタッフ**  
 企画: 高校生 (Kumaokota Youth Initiator)  
 制作: 高校生 (Kumaokota Youth Initiator)

**お問い合わせ**  
 お問い合わせ先: Kumaokota Youth Initiator (Eメール: kumaokota@fly.or.jp)

**私たちの活動ルール**

- ・ 楽しく、学びながら活動し、協力し合う。
- ・ 活動の目的を達成するための協力関係を築く。
- ・ 活動の進捗を定期的に報告し、互いにサポートする。
- ・ 活動の成果を共有し、学びを深める。
- ・ 活動の進捗を定期的に報告し、互いにサポートする。

番組ウェブサイト

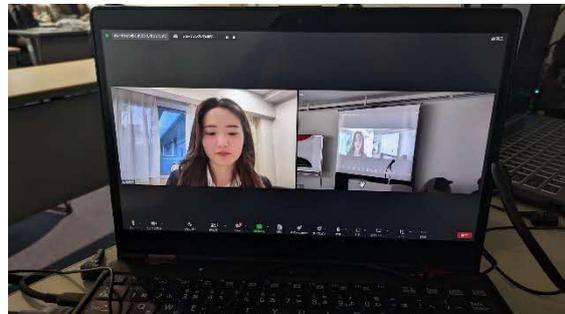
[関連活動 4] 2024年2月23日 団員が企画する熊本日独協会主催グローバル&イノベーション人材育成イベントでのイノベーション創発活動発表



A. I. 団員が制作したイベントポスター



ドイツにおける SDGs 施策を  
テーマとする R. I. 団員の発表の様子



2021年度オンライン交流に参加した  
E. I. 団員によるスポーツを用いた  
国際交流事業に関する発表の様子



ドイツをテーマとするグループトーク



熊本大学名誉教授によるドイツ語クイズ



熊本日独協会から活動証明書交付



司会を担当する K. I. & N. N. 団員



活動参加証明書

[メディア出演 4] 2024年2月26日熊本日新聞朝刊にグローバル人材育成発表会掲載



# 付録 2 団員研修資料

## 第 1 回事前研修資料 (2023/07/09 @ 熊本市立中央公民館)

|  |  |
|--|--|
| <p>令和 5 年度(2023 年度)<br/>熊本市・ハイデルベルク市青少年交流事業</p> <p><b>第1回事前研修会 資料</b></p> <p>2023年7月9日 熊本市中央公民館<br/>熊本市教育委員会<br/>講師 SCBラボ 内藤 豊</p> | <p>次第</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• あいさつ/自己紹介/事業説明</li> <li>• ハイデルベルク市の概要説明 P3             <ul style="list-style-type: none"> <li>• データでみるハイデルベルク市の概要</li> <li>• ハイデルベルク市の特徴</li> </ul> </li> <li>• パートナー受け入れの心構え P8             <ul style="list-style-type: none"> <li>• 文化や法律、ルールの違い</li> <li>• 多様性および個の尊重</li> </ul> </li> <li>• 担当や出し物決め P10</li> <li>• 宿題について P11</li> </ul> |
| 1  | 2  |

|   |  |
|---|--|
| <p>ハイデルベルク市の概要説明</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.位置 東経 8°42'<br/>北緯 49°24'</li> <li>2.標高 116m</li> <li>3.面積 109平方キロ (熊本市の1/4)</li> <li>4.人口 159,245人 (21.12月末現在)</li> <li>5.年平均気温 11.1℃<br/>22年最高気温 37.6℃<br/>22年最低気温 -15.7℃</li> <li>6.言語 ドイツ語</li> <li>7.民族 ドイツ人 (ゲルマン民族が大部分)</li> </ol> | <p>ハイデルベルク市の特徴 (産業①)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 教育/研究 ハイデルベルク大学 (欧州屈指/世界43位)<br/>世界トップレベルのバイオサイエンス</li> <li>• 医療 ハイデルベルク大学病院<br/>(欧州最大の医療施設のひとつ)</li> <li>• ハイテク ソフトウェア、システム開発、<br/>印刷システム、化学製品</li> <li>• 観光 ハイデルベルク城、古い橋、<br/>哲学者の道、ネッカー川</li> </ul>  |
| 3   | 4  |

|   |   |
|---|---|
| <p>ハイデルベルク市の特徴 (産業②)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 環境 SDGs推進<br/>パッシブハウス群「バーンシュタット」</li> </ul>  | <p>ハイデルベルク市の特徴 (産業③)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 観光             <ul style="list-style-type: none"> <li>• ハイデルベルク城</li> <li>• 古い橋<br/>アルテブリュッケ<br/>Alte Brücke</li> <li>• 哲学者の道</li> <li>• ハウトシュトゥラーゼ<br/>(メインストリート)</li> <li>• マルクト広場</li> </ul> </li> </ul>  |
| 5   | 6   |

|  |   |
|--|---|
| <p>ハイデルベルク市の特徴 (友好都市)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• パウツェン (旧東ドイツ)</li> <li>• ケンブリッジ (イギリス)</li> <li>• 杭州市 (中国)</li> <li>• 熊本市 (日本) 1992年～</li> <li>• モンペリエ (フランス)</li> <li>• パロ・アルト (アメリカ)</li> <li>• レホポート (イスラエル)</li> <li>• シンフェロポリ (ウクライナ&lt;クリミア&gt;)</li> </ul>  | <p>パートナー受け入れの心構え①</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• ドイツ人の気質：まじめ、シャイ、個人主義、独立心</li> <li>• 文化や法律、ルールの違い             <ul style="list-style-type: none"> <li>• 飲酒：低アルコール (ビールやワイン) 16歳&amp;その他18歳</li> <li>• 喫煙：18歳</li> <li>• 選挙権：18歳</li> <li>• 社交場：ディスコやゲーム場入店16歳未満NG<br/>&amp; 16～18歳24時まで</li> </ul> </li> </ul> |
| 7  | 8   |

### パートナー受け入れの心構え②

- 多様性：人種、年齢差、性差・・・とらわれない
- 個の尊重：個人 > 家族 > 社会  
ただし・・・バランス感覚がある。

9

### 担当決め、フェアウェルパーティでの出し物決め

- 内容は自由
- 歌やダンス？（ドイツ側の返礼の出し物あり）

例えば・・・

- 日本の高校生あるあるクイズ
- スマホの使い方自慢や利用ルールの比較
- 環境問題への意識の違いアンケート



10

### 宿題について解説

- 世界の問題を各自ひとつずつ調査
  - 環境、エネルギー、ICT、AI、LGBTQなど
  - 受入プログラム後に提出するレポート（感想文）のテーマ
  - パートナーと自分の違いを知る



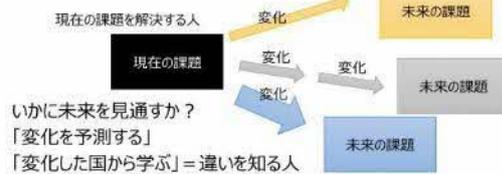
- 未来の課題を解決できる人材が社会には必要
- 団員として選ばれた = 未来人材になるチャンス！



11

### 宿題について解説

- 未来人材 = 未来の課題について考えられる人 未来の課題を解決する人



12

### 宿題について解説

- 違いを知るために学ぶ 「巨人の肩の上に乗る」
- 自分で考えて行動する
- いま、この時を活かす 「幸運の女神には前髪しかない」



|            |   |           |
|------------|---|-----------|
| 自分で考えてやる   | ◎ | ○         |
| 自分で考えてやらぬ  | × | △         |
| 言われたことをやらぬ |   | 言われたことをやる |

13

### 第2回事前研修会

- 日時 2023年7月23日（日）午前10時～12時
- 会場 鳥屋書店熊本三年坂 地下イベントスペース
- 携行品 筆記用具
- 活動内容
  - 英語学習
  - ICTを用いたコミュニケーション術
  - パートナーと読みたい書籍を探せ！
  - フェアウェルパーティの出し物
  - レポート（感想文）記述方法



昨年夏の鳥屋書店熊本三年坂のイベントの様子

14

第2回事前研修資料 (2023/07/23 @ 蔦屋書店熊本三年坂)

|  |   |
|--|---|
| <p>令和5年度(2023年度)<br/>熊本市・ハイデルベルク市青少年交流事業</p> <p><b>第2回事前研修会</b></p> <p>2023年7月23日@蔦屋書店熊本三年坂<br/>熊本市教育委員会<br/>講師 SCBラボ 内藤 豊</p> | <p><b>次第</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 英語学習 (フォニック講座) 宮本清香 (さやか) 先生 60min</li> <li>• ICTを用いたコミュニケーション術 15min</li> <li>• パートナーと読みたい書籍を探せ! 15min</li> <li>• フェアウェルパーティの出し物 30min</li> <li>• レポート (感想文) 記述方法 10min</li> </ul> |
|--|---|

|  |  |
|--|--|
| <p><b>英語学習 (フォニック講座)</b></p> <p>Sayaka Miyamoto (宮本清香)</p> <p>The one who will surely inspire you and be your role model.</p>  | <p><b>ICTを用いたコミュニケーション術</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Chat-GPT</li> <li>• Google Map</li> <li>• DeepL</li> <li>• Google翻訳</li> <li>• Japan Official Travel App</li> <li>• Comic Walker</li> <li>• BBC Learning English</li> </ul> |
|--|--|

|   |  |
|---|--|
| <p><b>chat-GPT①</b></p> <p><a href="https://chat.openai.com/">https://chat.openai.com/</a></p> <p>ChatGPTはOpenAIによって訓練された大規模な人工知能言語モデルです。自然言語処理の分野において最先端のテクノロジーを利用し、人間のようなテキストを生成する能力があります。それは対話、物語の作成、情報の提供など、多岐にわたる任務を遂行するために使用されます。</p>  | <p><b>chat-GPT②</b></p> <p>使い方のテクニック</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 誰に対して答えるのかを指定可能             <ul style="list-style-type: none"> <li>• 10歳の子供にも分かるように</li> <li>• 韓国語で</li> </ul> </li> <li>• バリエーションを指定可能             <ul style="list-style-type: none"> <li>• 例を用いて</li> <li>• 特別な論法で</li> </ul> </li> <li>• ディスカッションさせることができる</li> </ul>  |
|---|--|

|  |  |
|--|--|
| <p><b>Google Map</b></p> <p><a href="https://www.google.com/maps">https://www.google.com/maps</a></p> <p>Googleマップは、ウェブベースの地図サービスで、地図情報の閲覧やルート検索、ローカルビジネスの情報検索などを可能にします。また、スマートフォンのアプリとして利用し、GPSを通じてリアルタイムナビゲーションも提供します。</p> <p>使い方 <a href="#">Trivia</a></p>   | <p><b>DeepL</b></p> <p><a href="https://www.deepl.com/translator">https://www.deepl.com/translator</a></p> <p>ディープラーニングを利用した高精度な機械翻訳サービスを提供するオンラインツールです。多くの言語間の翻訳をサポートし、その翻訳品質は他の多くの自動翻訳システムと比較して優れていると評価されています。</p>  |
|--|--|

### Google翻訳

Googleが提供する無料の多言語機械翻訳サービスで、ウェブベースのインターフェースのほかにモバイルアプリとしても利用できます。ユーザーはテキストを入力するか、音声を録音し、画像をスキャンすることで多くの異なる言語間で翻訳を行うことができます。




9

### Japan Official Travel App

訪日外国人旅行者向けに日本政府観光局（JNTO）が提供する公式旅行アプリ。機能は観光スポットの情報、飲食店、宿泊施設の検索、公共交通機関のルート案内や時刻表情報など。熊本の観光地について英語で詳しく説明。




10

### Comic Walker

<https://comic-walker.com/>

KADOKAWAが提供する無料のウェブコミック配信サービスです。多様なジャンルの漫画作品を、誰でもインターネットを通して読むことができます。新作から名作まで、さまざまな作品がラインナップされており、一部の作品は英語や他の言語で読むことも可能です。




11

### BBC Learning English

[https://www.bbc.co.uk/learningenglish/english/easy\\_course](https://www.bbc.co.uk/learningenglish/english/easy_course)

BBCが提供する無料の英語学習サービスです。このサービスは、英語学習者のさまざまなレベルとニーズに対応した教材を提供しています。




12

### ICTを用いたコミュニケーション術

- chat-GPT <https://chat.openai.com/>
- Google Map <https://www.google.com/maps>
- DeepL <https://www.deepl.com/translator>
- Google翻訳 Androidアプリ
- Japan Official Travel App <https://www.japan.travel/en/app/>
- Comic Walker <https://comic-walker.com/>
- BBC Learning English [https://www.bbc.co.uk/learningenglish/english/easy\\_course](https://www.bbc.co.uk/learningenglish/english/easy_course)
- Anime&Manga-no-Nihongo <https://anime-manga.jp/en/>

13

### パートナーと読みたい書籍を探せ！

- 15分間で店内で探してくる→地下中央のレジに集合
- 絵本、雑誌、書籍、なんでもOK！（本でなくてもOK）
- 「なぜ」「理由」「目的」が大事
- パートナーとどうやってつながろうか、興味を惹こうか？
- ヒント：本は手段、目的を考えよう

14

### 担当決め、フェアウェルパーティでの出し物決め

黒岩先生、よろしくお願いします！



15

### レポート（感想文）記述方法

- What 何を
- Why なぜ？目的
- How 具体的な行動
- Effect 効果

具体的な手法

1. 書きたいことを簡潔書き
2. 並べ替え
  - 時系列
  - ストーリー順
3. 書き始める

- 感想文は「やったこと」と「その感想」
- レポート「何のために？目的は？評価は？効果は？」
- 客観性を持たせよう！（訓練です！）

16

## 事後研修会

- 日時 2023年8月20日(日)  
午前10時~12時
- 会場 未来会議室下通店
- 携行品 筆記用具
- 活動内容
  - レポート発表
  - まとめ
  - アイデアコンテスト応募に向けて



2022年度が未来会議室で実施された研修の様子

ELK Kanaroto <https://h30.com/jp/>

17



## Heidelberg Member List #1

ID first Name Surname 名 姓

1 Melina Heinz メリーナ ハインツ  
趣味: 読書、スポーツをすること



2 Greta Metz グレーター メッツ  
趣味: バスケットボール



3 Edith Mocanu エーディット モカヌ  
趣味: スポーツをすること, 音楽鑑賞、友達と外出



18

## Heidelberg Member List #2

ID first Name Surname 名 姓

4 Emma Reifke エッマー ライフケ  
趣味: ゲーム、絵を描くこと、音楽鑑賞 (HipHop)



5 Lukas Ott ルーカス オット  
趣味: ピアノ演奏... 熊本城が楽しみ



6 Elisabeth Schweizer  
エリザベット シュバイツァー  
趣味: 音楽鑑賞



19

## Heidelberg Member List #3

ID first Name Surname 名 姓

7 Kaisu Lillich カイズー リリッヒ  
趣味: バスケットボール



8 Silas Duncelmann シーラス ドンケルマン

9 Frederick Duncelmann フレデリック ドンケルマン

Kaisu

20

## Heidelberg Member List #4

ID first Name Surname 名 姓

10 Rebecca Uhlmann レベッカ ウールマン  
趣味: 読書、バレーボール、アニメ



11 Linus Jonathan Freitag  
リーナス ヨーナタン フライターク  
趣味: バレーボール



12 Elisabeth Grande エリザベット グランデ



21

## Heidelberg Member List #5

ID first Name Surname 名 姓

13 Ennio Krüger エニオ クルーガー  
趣味: サッカー、ジムでのトレーニング、ピアノ演奏



14 Till Woerner ティル ウエルナー  
趣味: 音楽鑑賞



22

## Heidelberg Member List #6

15 Steffen Wörner シュテフェン ヴェルナー  
Head of delegation



Steffen

16 Florian Spath フローリアン シュバート  
Team-Lead



Florian

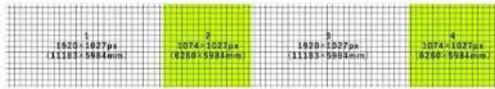
17 Silja Rauch シリヤ ラオホ  
Interpreter

23

## イノベーションワークショップ資料 (2023/08/05 @ 崇城大学 IoT・AI センター)

|   |  |
|---|--|
| <p>令和5年度(2023年度)熊本市・ハイデルベルク市青少年交流事業<br/>2023 Jugendaustauschprogramm Kumamoto – Heidelberg</p> <p><b>最先端ICT&amp;イノベーション創発体験会</b><br/>Erfahrungen mit modernsten IKT und der Schaffung von Innovationen</p> <p>5. August 2023 @IoT- und KI-Zentrum der Sojo-Universität<br/><b>熊本市教育委員会</b><br/>講師 SCBラボ 内藤 豊 (Yutaka Naito)</p> | <p><b>次第 (日本語)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>10:10 施設見学・ナビゲーションスタジオ・プレゼンテーションスタジオ・メタ空間スタジオ・XRスタジオ ほか</li> <li>11:00 団員ワークショップ①・メタ空間スタジオ活用コンテスト (自由な発想でスタジオを彩る) @メタ空間スタジオまたはプレゼンテーションスタジオ</li> <li>11:30 昼食 (会場: 慶賓館) 食事後, 大学内散策 &amp; WS①に用いる写真や動画素材撮影</li> <li>12:30 素材 &amp; アイデア提出・IoTセンター学生クラブ学生スタッフが編集作業@ラウンジ</li> <li>12:40 団員ワークショップ②・イノベーション創発体験@プレゼンテーションスタジオ</li> <li>14:15 メタ空間スタジオ活用コンテスト &amp; 表彰@プレゼンテーションスタジオ</li> <li>14:50/バスへ15:00 崇城大学発</li> </ul> <p style="text-align: right;">2</p> |
|---|--|

|  |  |
|--|--|
| <p><b>Programm (Deutsch)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>10:10 Besichtigung der Einrichtungen Navigations-Studio/Präsentations-Studio/Metaspacé-Studio/XR-Studio, etc.</li> <li>11:00 Workshop für Gruppenmitglieder (1) - Wettbewerb für die Nutzung des Meta Space Studios (dekoriieren Sie das Studio mit Ihren eigenen Ideen) @ Meta Space Studio oder Presentation Studio.</li> <li>11:30 Mittagessen (Veranstaltungsort: Keihin Kaikan) Nach dem Mittagessen Spaziergang durch die Universität und Aufnahme von Fotos und Videomaterial für den Workshop(1).</li> <li>12:30 Einreichung von Materialien und Ideen Bearbeitung durch studentische Mitarbeiter des IoT Centre Student Club in der Lounge</li> <li>12:40 Workshop für Gruppenmitglieder (2) Erfahrung mit der Schaffung von Innovationen @ Präsentationsstudio</li> <li>14:15 Metaspacé Studio Nutzungswettbewerb &amp; Auszeichnungen@ Präsentationsstudio</li> <li>14:50 Zurück zum Bus</li> <li>15:00 Abfahrt von der Sojo Universität</li> </ul> <p style="text-align: right;">3</p> | <p><b>Program (English)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>10:10 Tour of facilities Navigation Studio/Presentation Studio/Metaspacé Studio/XR Studio, etc.</li> <li>11:00 Group Workshop 1: Meta Space Studio Utilization Contest (free ideas to decorate the studio) @ Meta Space Studio or Presentation Studio</li> <li>11:30 Lunch (Venue: Keihin Kaikan) After lunch, walk around the university &amp; take photos and video materials for WS(1).</li> <li>12:30 Submission of materials and ideas @ lounge IoT Center Student Club student staff editing work</li> <li>12:40 Workshop for group members (2) Experience for Innovation Creation @ Presentation Studio</li> <li>14:15 Metaspacé Studio Utilization Contest &amp; Awards @ Presentation Studio</li> <li>14:50 To the bus</li> <li>15:00 Depart from Sojo University</li> </ul> <p style="text-align: right;">4</p> |
|--|--|

|   |   |
|---|---|
| <p><b>Workshop (1) ワークショップ(1)</b><br/>Express yourselves on the Meta-space studio</p> <p>メタ空間スタジオで自分たちを表現</p>  <p style="text-align: right;">5</p> | <p><b>The future is in your hands.</b><br/>未来はあなたたちの手に</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>You are the human resource that will shape the future.</li> <li>あなたは未来を切り開く人材です。</li> </ul>  <p style="text-align: right;">6</p> |
|---|---|

|   |   |
|---|---|
| <p><b>You are an innovator/あなたはイノベーター</b></p> <p>In fast-aging Japan, researchers have calculated that up to 49 percent of jobs could be done by robots within the next ten to 20 years.</p> <p>高齢化が進む日本において、今後10~20年で49%の仕事がロボットに代替される~601種の職業の代替確率を推計 (2015年)</p>  <p>Nomura Research Institute News Release, Professor Michael Osborne, Oxford University and Nomura Research Institute (NRI), 2015</p> <p style="text-align: right;">7</p> | <p><b>Again, You are an innovator</b>  <b>もう一度いいます。あなたはイノベーター</b></p> <p>Our findings indicate that approximately 80% of the U.S. workforce could have at least 10% of their work tasks affected by the introduction of GPTs, while around 19% of workers may see at least 50% of their tasks impacted.</p> <p>米労働人口の約80%はGPTの導入によって、少なくとも仕事の10%が影響を受ける可能性がある。また、米労働人口の約19%は、仕事の50%以上が影響を受ける可能性がある</p> <p>GPTs are GPTs: An Early Look at the Labor Market Impact Potential of Large Language Models, arXiv, Tyna Eloundou, Sam Manning, Pamela Mishkin and Daniel Rock, OpenAI, OpenResearch, University of Pennsylvania, March 2023.</p> <p style="text-align: right;">8</p> |
|---|---|

You MUST be an innovator  
あなたはイノベーターでなければいけない



9

Let's Watch a Movie 動画で3つの手法を理解  
For understanding 3 important measures



10

### Definition 定義

- **Invention 発明** : Creating new values through scientific and technological advances.  
科学や技術の進展によって新たな価値観を創出すること
- **Innovation イノベーション** : Creating new values through **new combinations of existing resources.**  
既存の資源の新結合によって新たな価値観を創出すること
- **Campaign キャンペーン** : To work together with others to realize the society we aim for.  
目指す社会の実現のために他者と共同して活動すること

11

### Innovation Everywhere, Everybody どこでも誰でもイノベーションは創発可能

- Urban areas have capital, human resources, and excellent research institutions  
都市部=資本, 人材, 優れた研究機関が備わる
- There are connections among diverse local resources in rural areas.  
地方=多様な地域資源同士のつながりがある
- **Create connections (activities) that people want to participate in**  
**人々が参加したくなるつながり (活動) を創る**

12

### Innovation Everywhere, Everybody どこでも誰でもイノベーションは創発可能

- Urban areas have capital, human resources, and excellent research institutions  
都市部=資本, 人材, 優れた研究機関が備わる
- There are connections among diverse local resources in rural areas.  
地方=多様な地域資源同士のつながりがある
- **Create connections (activities) that people want to participate in**  
**人々が参加したくなるつながり (活動) を創る**

13

### Exercise 1 演習1 Dried food sprinkled over rice ふりかけ



- Add flavor to rice  
ごはんの味を加える
- Make rice tasty  
ごはんをおいしくする



- **Think of an idea for a new combination.**  
**新結合のアイデアを考えよう**

14

### Exercise 2 演習2 Storyful Dried food sprinkled over rice ふりかけの物語

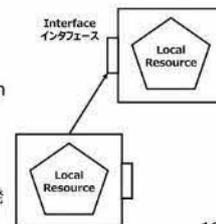


- To help nutritionally (calcium) deficient children, small fish were mashed to make furikake, 100 years ago.  
100年前に、栄養(カルシウム)不足の子供たちを救うために小魚をすりつぶしてふりかけを作った。
- **Think of an idea for a new combination.**  
**新結合のアイデアを考えよう**

15

### Virtualization is important

- How to Connect with the others  
他者といかにつながるのか?
- What to show for new connection  
新たなつながりのために何を見せるのか?
- Innovation can emerge from unique connections  
ユニークなつながりからイノベーションを創発可能



16

## 未来の自分を仮想化 Virtualizing the future self

5B 未来の自分を仮想化 Virtualizing the future self

|                              |  |
|------------------------------|--|
| 氏名 Name                      | ビジョンやコンセプト Vision / Concept / Purpose              |
| 持続的得意業 Sustained Activity    |  |
| 得意業 Self-portrait<br>得意業の自己像 | 職業や関心のあること、趣味 Work/Occupation / Hobbies / Facility |
|                              | スキル (得意) 強み  |

17

## Questionnaire アンケート



18

## 事後研修会

- 日時 2023年8月20日 (日)  
午前10時～12時
- 会場 未来会議室下通店
- 携行品 筆記用具
- 活動内容
  - レポート発表
  - まとめ
  - アイデアコンテスト応募に向けて



2023年度未来会議室下通店での活動の様子

F.Y. Kuramoto <https://fky.stnmu.ac.jp/>

19

## Workshop (2) Experience for Innovation Creation

- Contents
- 未来人材
- 未来の地域活性化
- イノベーション創発
- 国連動画(イノベーション・イノベーション・キャンペーン)
- イノベーションとは既存の地域資源の新たなつながり
- つながりには2通り、トップダウン、ボトムアップ (対等)
- イノベーションはボトムアップ型
- 仮想化：機能やモノのつながり、目的やビジョン、活動のつながり
- つながるワークショップ①ふりかけパターンA、パターンB②自分を仮想化 (自己紹介)

20

事後研修会資料 (2023/08/20 @ 未来会議室下通店)

|   |  |
|---|--|
| <p>令和5年度(2023年度)<br/>熊本市・ハイデルベルク市青少年交流事業</p> <p><b>事後研修会</b></p> <p>2023年8月20日@ 未来会議室下通店<br/>熊本市教育委員会<br/>講師 SCBラボ 内藤 豊</p> | <p><b>次第</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・レポート作成 (内藤) 80min</li> <li>・レポート発表 (内藤) 60min</li> <li>・交流のまとめ (黒岩) 10min</li> <li>・FIYの活動について (内藤)             <ul style="list-style-type: none"> <li>・参加希望調査</li> <li>・動画ワークショップ</li> <li>・アイデアコンテスト参加</li> </ul> </li> </ul> |
|---|--|

|  |  |
|--|--|
| <p><b>報告書作成講座</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・配布したWORDファイルを参照</li> </ul> | <p><b>レポート(感想文) 記述方法</b></p> <p>具体的な手法</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 書きたいことを箇条書き</li> <li>2. 並べ替え             <ul style="list-style-type: none"> <li>・時系列</li> <li>・ストーリー順</li> </ul> </li> <li>3. 書き始める</li> </ol> <ul style="list-style-type: none"> <li>・感想文は「やったこと」と「その感想」</li> <li>・レポート「何のために? 目的は? 評価は? 効果は?」</li> <li>・客観性を持たせよう! (訓練です!)</li> </ul> |
|--|--|

|   |  |
|---|--|
| <p><b>活動のまとめ</b></p> <p>黒岩先生から</p>  <p>団員アンケートはこちら</p> | <p><b>F.I.Y.の活動について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・F.I.Y.とは Fostering Innovation with Youths<br/>ハイデルベルク青少年交流事業に参加した学生らが自主的に運営するグループ(約20名)</li> <li>・目的 イノベーションを起こすことで、熊本をはじめとする地域を活性化し、社会に貢献する</li> <li>・F.I.Y. Kumamoto<br/><a href="https://fiy.ispeer.jp/">https://fiy.ispeer.jp/</a><br/>協力団体(13団体)</li> </ul>  |
|---|--|

|   |   |
|---|---|
| <p><b>F.I.Y.でアイデアコンテストに挑戦</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・SDGs Quest みらい甲子園熊本大会で肥後銀行賞受賞</li> </ul>  <p>F.I.Y. (県立八代高校)</p> <p><small>F.I.Y. Kumamoto <a href="https://fiy.ispeer.jp/">https://fiy.ispeer.jp/</a></small></p> | <p><b>イノベーションスキル向上とコンテスト受賞</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・SDGs Design International Awards 2023 九州大学大学院芸術工学 テーマ「未来の子育て」10/15締切 <a href="https://www.sdgs.design.kyushu-u.ac.jp/awards/">https://www.sdgs.design.kyushu-u.ac.jp/awards/</a></li> <li>・中高生読書英語×探究プレゼンコンテスト 11月15日(水) フレントリー受付締切 12月14日(木) 本エントリー受付締切 <a href="https://esible.or.jp/change-maker-awards/">https://esible.or.jp/change-maker-awards/</a></li> <li>・高校生ビジネスプラングランプリ (日本政策金融公庫) 9/20締切 <a href="https://www.jfc.go.jp/n/grandprix/">https://www.jfc.go.jp/n/grandprix/</a></li> <li>・崇城大学ビジネスプランコンテスト 10月末締切予定 <a href="https://www.sojp-v.com/contest/">https://www.sojp-v.com/contest/</a></li> <li>・高校生「ものづくり・ことづくり」プランコンテスト2023 11/30締切 <a href="https://www.sist.ac.jp/news/monokoto.html">https://www.sist.ac.jp/news/monokoto.html</a></li> <li>・SDGs Quest みらい甲子園 1/10締切予定 <a href="https://sdgs.ac/about">https://sdgs.ac/about</a></li> <li>・第11回アイデアで社会を良くするコンテスト(公益社団法人 日本広告制作協会) 1/31 <a href="http://www.oac.or.jp/activity/award.html">http://www.oac.or.jp/activity/award.html</a></li> <li>・第11回 サクシイノベーションアワード 未来が「私の」仕事を考える 2024年1月13日(土) 締切 <a href="https://kc-1.jp/activity/award/innovation/2023/high/">https://kc-1.jp/activity/award/innovation/2023/high/</a></li> </ul> |
|---|---|

## 動画制作のスキルも向上

- 北区地域活性化動画コンテスト 熊本市北区役所・肥後銀行・J:COM 2024年1月締切  
<https://contest.jspeer.jp/>
- OAC学生広告クリエイティブアワード2023 公益社団法人 日本広告制作協会 11月12日締切  
[http://www.oac.or.jp/gakusei\\_award2023/](http://www.oac.or.jp/gakusei_award2023/)
- YouTube甲子園 NEXT STAGE 11月28日締切  
<https://youtube.koshien.k-manabonect.co.jp/>



YouTube甲子園 NEXT STAGE 録画動画のスクリーンショット

## 付録3 熊本市交流団員アンケート(自由記述)結果

調査者 青少年交流団 指導員 黒岩 義史 (必由館高校教諭)

1 交流事業を通して、どんなことが良かったと思いますか？具体的な場面を含めて記述してください。具体例) 美里町の道の駅で、一緒に川遊びをして、関係性が深まった。

パートナーとの会話の中で、「夏休みは宿題がない」などの新しい発見があった。

|  |
|--|
| ホストファミリーとの日で、ペアと2人でゆっくり楽しむことができ、仲が良くなった。   |
| 実際のドイツの方のことを知ることができて、今までの自分の認識の違いや、文化の違いをより深く知ることができた。   |
| 英語をうまく使えなくても、共通の趣味などの話で盛り上がったこと。   |
| ホストファミリーの日でお互いの文化の違いについて話し、様々な違いを感じ関係を深められた。   |
| 元気の森かじかでみんなでバーベキューや花火などしたのが楽しくて、ドイツの人たちについてよく知ることができた。   |
| ホストファミリーの日に英語を話すことができることを自覚できたことから、他国の人と話す抵抗が少しなくなった。  |
| 交流の前までは、何となく国という大きな括りでのイメージしかなかったけれど、パートナーとの関係性ができたことで、より深く知ることができたことから、更に国外のことやパートナーのことを知りたいと思うようになった。流しそうめんと一緒に体験できてより繋がりが深まった。  |
| ハイデルベルクの学校には制服もないし、夏休みが少し長いということが分かった。英語は子どもの頃から勉強して、学校で使う英語と日常で使う英語は違うことがわかった。みんなで美里に泊まった時にBBQでみんなソーセージばかり食べていて好きな子が多いのかなと思ったし、有名な理由も納得した。泊まる前にみんなでいろいろな話をして、また女子トークもして楽しかった。 |
| バーベキューや花火など自然と会話が生まれる場面が良かった。その会話から他の話題へと繋いでみたりすることができたことも良かった。  |
| ホストファミリーの日でパートナーと茶道や日本庭園を体験して、日本のことを知ってもらう良い機会になった。海外の人だと意識せず、日本人の友達と同じように簡単な英語で楽しく話せた。  |
| 良い意味での価値観の違いを発見した。人の目を気にせずに堂々としていて、自分にとって刺激になった。   |

|  |
|--|
| ドイツではSDGsが広く進められていると知ってペアの子にSDGsの話をしていたら、「それはなに？」と衝撃的な言葉が返ってきたことが忘れられません。アクティビティをしている時は、黙々としてしまう癖があったので、あまり話が弾まなかった時もあったけど、バスの中でとか移動中にリラックスしている時にゆっくり深く話せたことがよかった。                             |
| 自分の言葉でドイツメンバーと会話ができたことです。英語を話せたことではなく、コミュニケーションがとれたことが一番よかったです。話の中には様々な発見がありました。これは彼らと話すか関わらないと、分からなかったことです。ひとつ例をあげるとしたら、日本とドイツの手のあげ方(人差し指を立ててあげるか、手のひらを伸ばしてあげるか)の違いです。これは実際にそこで見ない限り疑問は持ちません。 |
| 小学校に泊まったので学校についてお話しする機会を作りやすかった。小中高がある前提で話していたらシステムが違おうしく、その点がとても面白かった。  |

**2 交流事業を通して、「もっとこうしておけば良かった…」と思った改善点はありましたか？(具体的例) 熊本城での見学の時に、英語がなかなか話せなかった。**

|  |
|--|
| 阿蘇山の博物館で、内容を英語で説明することが全くといっていいほど出来なかった。  |
| もっと色々なことを聞いていればよかったと思った。   |
| 熊本について紹介したくても、熊本の知識自体が足りなかった。  |
| 完璧に話すことを意識しすぎて喋りたいことをなかなか喋れないことがあった。   |
| 英語を間違えることが怖くて積極的にパートナーと会話をするのができなかった。  |
| もっと単語をたくさん勉強して博物館でも説明してあげたらよかった。   |
| バス移動の際など、交流初期と比べて大分少なくなつたものの、英語を話すことを恐れてしまう姿勢がまだ残っていた。   |
| 英語が話せない時にすぐに分からないんだって言えなかった。本当に聞きたいことが聞けても聞き取れなくて、少し濁してわかったよって言ってしまったこと。   |
| 初日に英語で上手く伝えることが出来ない状況にもどかしさを感じたのにも関わらず、落ち込んでしまい、英語を話すことを躊躇ってしまった。  |
| パートナーから話してくれることが多かったので自分から積極的に話せたらよかった。  |
| 初日はドイツのメンバーの英語が分からなくても相槌をうったり、そのまま会話を流してしまっただけで、今考えるととても失礼なことだったし、もっと喋りかけて仲良くなって異国の人としてではなく、友達としてたくさんのことを話せばよかったなと思いました。 |
| 初日はまだ難しさというものがあってずっと緊張しっぱなしで上手く紹介だったりできなくて後悔している。ペアだけとか、ペアの仲のいい子だけとか深く話すことができなかったからペアとか関わらず話せたらよかったなと思っています。             |

|  |
|--|
| 私は英語を話すことだけに関しては困ることはあまりなかったのですが、熊本城や水前寺公園など観光地に行ったときに、自分がまず熊本の歴史や文化について知らなかった、知識が浅かったので質問に答えることができず、悔しかったです。事前に Google で調べてはいましたが、全く知識が身につけていないと実感しました。まず自分が実際そこにいって身をもって体験しておくべきだったと思いました。 |
| 単語量をもっと多くしておかなくてはいけないと思った。   |

### 3 来年はハイデルベルク市に訪問します。この1年間、あなたはそこに向けてどんな準備をしていきますか？

|   |
|---|
| 自分を変えていく。相手に誠意を持って接することに慣れていく。  |
| ドイツ語の勉強をしたい。現在、希望者何人かで集まって2ヶ月に1回ほどのペースでドイツ語勉強会を開くという草案がある。  |
| もっと英語を話せるように勉強したり、挨拶程度でもいいからドイツ語を話せるようにしたい。この一年をかけて、もっとハイデルベルク市についての知識も身につけたい。  |
| 英語の勉強はもちろん、パートナーとの関係を途絶えさせず日本人のメンバーの子達とも関係を継続していく。  |
| みんなでたまに集まってドイツ語や英語を勉強したい。   |
| 母校の英語のクラブに新しい活動を加えたり、英語の部屋などを作ったりしたいと思っています。そうすることで来年の夏のためになるかと思っています。  |
| 英語やドイツ語の学習、文化を知る、交流を続ける。  |
| 英語力をあげる、連絡を取る、異文化カフェに参加する、ドイツについてもっと沢山知る、ハイデルベルクの歴史とはなんなのかもっと深く調べる。   |
| まずは単語力を増やし、ハイデルベルクについて調べながら気になった場所に行きたいという意思を相手に伝えていきたい。日本の文化祭や体育祭の様子を伝えたい。   |
| 英語の勉強。パートナーとのメールのやり取り。ドイツについて調べる。   |
| 英検の勉強・取得。国際的なイベントの参加。国内外関係なくニュースをたくさん見る。  |
| 英語力を上げることはもちろんドイツ語も学んでみたいです。自分の興味のある分野も増えたからそれも進めていきたいです。   |
| 語学の準備はもちろんなんですけど、2番でも答えたように、日本のこと熊本のこと自分自身のことを語れるようにしたいです。ハイデルベルクに行けるこの貴重な機会を通して、何を吸収したいのか、何を伝えたいのかまだ具体的には決まっていますが、この1年間でそこを具体的なものにして有意義な時間になりたいです。 |
| ドイツ語を学ぶ英検を受ける。アウトプットを大事にして勉強する。   |

熊本市教育委員会 地域教育推進課

(受託者 一般社団法人 SCB ラボ)